旧板橋第四中学校跡地施設整備構想・整備計画

（素案）

令和８年９月

目次

第１章　はじめに 1

１　経緯・計画策定の趣旨 1

２　旧板橋第四中学校跡地施設整備構想・整備計画（中間のまとめ）令和８年４月 2

３　計画の目的 3

４　本計画の位置づけ 4

第２章　旧板橋第四中学校跡地の現状と課題 5

１　建物・敷地の状況 5

２　旧板橋第四中学校跡地周辺の状況 10

３　問題点及び課題の整理 11

第３章　施設整備構想 20

１　基本方針・基本理念 20

第４章　施設整備計画の検討状況 22

１　建物構造・機能 24

２　運営方針 24

３　施設整備の考え方 25

４　外構計画 30

５　その他整理すべき検討課題 30

６　整備・配慮すべき事項 31

第５章　事業手法・今後のスケジュールなど 33

１　事業手法 33

２　想定事業費 33

３　事業・工事スケジュール 33

４　跡地活用計画 33

第６章　住民・施設利用者意見まとめ（旧板三小と同時説明） 34

１　住民説明会の概要 34

２　アンケート形式による意見 37

３　ワークショップ形式による意見 43

４　オープンハウス形式による意見 46

※　本資料については、整備構想・整備計画（素案）であり、検討の深度化に併せ、変更の可能性があります。

第１章　はじめに

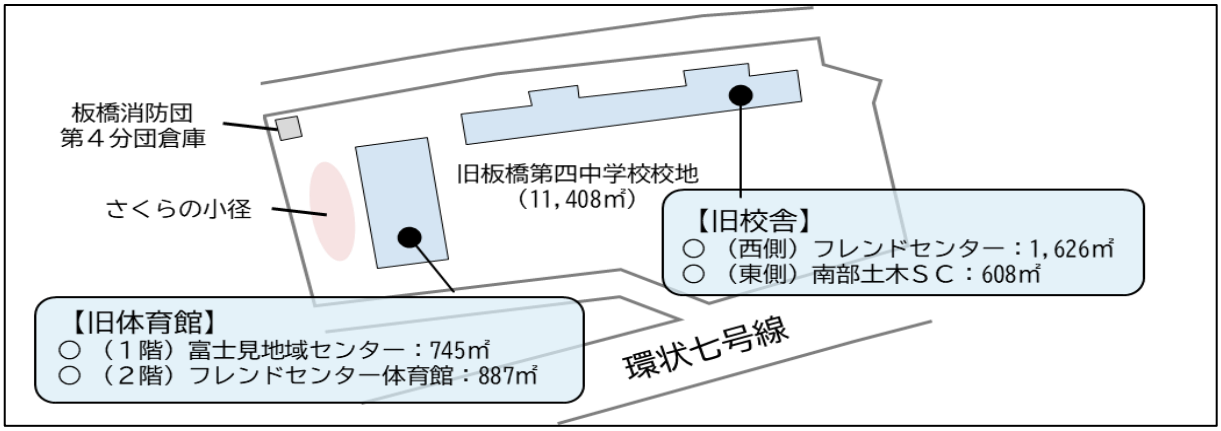
１　経緯・計画策定の趣旨

旧板橋第四中学校（以下「旧板四中」）は、平成 18（2006）年３月末に閉校し、平成 19（2007）年４月から旧校舎を板橋フレンドセンター（以下「フレンドセンター」）として、旧体育館の１階を富士見地域センターとして使用しており、平成 29（2017）年度に南部公園事務所（現・南部土木サービスセンター）が東板橋公園から移転しました。

令和元（2019）年度から令和２（2020）年度にかけて、区の実施計画「いたばしNo.１実現プラン 2021」に基づいて、公共施設の配置検討を進める中で、富士見地区における課題の一つとして、旧板四中について検討を行い、方針案を作成して地域の方へお示ししました。

一方で、令和３（2021）年１月に策定した「いたばしNo.１実現プラン 2025」において、コロナ禍など社会環境の急激な変化を踏まえ、集約・複合化にかかる方針決定については、令和５（2023）年度以降としました。

その後、令和６（2024）年１月に策定した「いたばしNo.１実現プラン 2025 改訂版」に基づき、この間における社会環境の変化、次期基本計画を見据え、令和７（2025）年３月に活用方針を策定し、令和８（2026）年４月に「旧板橋第四中学校跡地施設整備構想・整備計画（中間のまとめ）」を作成しました。



施設概要

所在地	東京都板橋区富士見町３－１
敷地面積	11,408 ㎡（旧校舎側：8,583 ㎡、旧体育館側：2,825 ㎡）
施設延床面積	旧 校 舎：4,151 ㎡　／　旧体育館：1,632 ㎡
構造	旧 校 舎：RC 造、地上４階 旧体育館：RC 造、地上２階
築年数	【旧校舎】 最東端：昭和 37 年（築 63 年） 中央部：昭和 40 年（築 60 年） 最西端：昭和 53 年（築 47 年） 【旧体育館】昭和 59 年（築 41 年）
施設現況	【旧校舎】 フレンドセンター、南部土木サービスセンター、文書倉庫 【旧体育館】 富士見地域センター、フレンドセンター体育館 旧板橋第四中学校記念品展示室 【旧校庭】 フレンドセンター広場・南部土木サービスセンター

２　旧板橋第四中学校跡地施設整備構想・整備計画（中間のまとめ）令和８年４月

（１）検討課題

〇空間・整備機能の最適化

- 多目的スポーツ広場とフレンドセンターなど、異なる機能の適切な配置。
- 創造性をはぐくむ居場所機能と多世代交流を促進する機能の複合化による相乗効果の創出。

〇運営の時間的柔軟性

- 曜日や利用時間帯によって変化するニーズへの対応。
- 多目的スポーツ広場や体育館スペースなど、同一空間の多目的利用を可能にする運営方法。

〇防災機能の両立

- 平時利用と災害時の防災拠点としての機能両立。
- 災害時の運用など区の防災力強化にかかる課題解決の必要性。

〇地域資源の保存

- さくらの小径など、地域に愛されている景観要素の保存への配慮。
- 地域行事の継続性を担保可能な空間整備の必要性。

（２）活用のコンセプト

① 未来を創る子ども・若者世代を応援「若者・地域交流拠点」

子ども・若者と地域住民などが自由に集い、活動・交流できるスペースのほか、カフェなどの付加機能を備えます。

② スポーツで育む交流と健康「多目的スポーツ広場」

ニーズに合わせてフレキシブルに利用可能な多目的広場を整備し、人工芝化や夜間運用を視野に入れた照明設備なども検討します。

③ 誰一人取り残さない「多様な学びの場」

フレンドセンターの配置・機能充実を図り、不登校の児童・生徒の学びの保障に資する、「安心して過ごせる居場所」を継続的に提供します。

④ 立地を活かした「防災力の強化」

環状七号線沿いの立地優位性を生かし、災害時の対応力の強化を図ります。

（３）基本方針・基本理念

上記の活用コンセプトを踏まえ、持続可能な地域のつながりと愛着をはぐくむ「ひと　と　まち　をつなぐ　みらい創造・交流拠点」を基本方針とし、基本理念として、以下のことを定めました。

① 居場所空間の創出

子ども・若者・子育て世代が背景を問わず集い、自分らしく過ごせる居場所空間の創出（想定機能：フレンドセンター、CAP’S 富士見台児童館（以下「富士見台児童館」）、大原生涯学習センター（i-youth 含む）（以下「大原生涯学習センター」）

② 共創空間の構築

「創造」を核として地域・多世代の交流を促進し、誰もがともに学び・教えあう共創空間の構築（想定機能：富士見地域センター、大原生涯学習センター、ボランティアセンター、多目的スポーツ広場）

③ 災害拠点の整備

区民の生命・財産を守るため、災害時を想定してすべての人が安心・安全を実感できる災害拠点の整備（想定機能：南部土木サービスセンター、ボランティアセンター、避難所、防災備蓄倉庫）

（4）課題解決の方向性

① 大原生涯学習センター、富士見台児童館、富士見地域センター、フレンドセンター、ボランティアセンターによる、「つながりの居場所」を含めた機能の具体化に向け、必要となる空間・設備を検討し、相互連携が促進される複合施設のメリットを最大限活かした適切な運営を推進します。

② 地域行事が継続できるような設え、旧板橋第四中学校閉校の際に植樹した「カンザクラ」を保存し、体育館を複合施設建物内に設けることにより、広場空間の確保及び建物上部の活用を行うことで、様々なニーズにフレキシブルな対応ができるよう検討します。

③ フレンドセンター通級児童・生徒が安心して過ごしながら学べる空間を整備し、自分らしく過ごせるよう出入口の配置など、プライバシーに配慮した空間整備を検討します。

④ 環状七号線沿いの好立地を活かし、区全体の防災力強化を図る機能、南部土木サービスセンターを引き続き配置し、ボランティアセンターとの連携も含め、道路接道や備蓄倉庫などの整備、効果的な動線を検討します。

3 計画の目的

「旧板橋第四中学校跡地施設整備構想・整備計画」では、「（中間のまとめ）」までの検討内容を踏まえ、平常時利用と災害時利用で機能転換が可能となるよう、それぞれの施設機能を効率的に運用しながら、災害時には避難所や防災拠点などへ円滑に機能転換できるよう計画された建物構造や配置をする一方で、フレンドセンターや富士見地域センター、南部土木サービスセンターなど他転用が困難な機能のエリア分けや動線など、新施設で整備すべき条件を整理します。

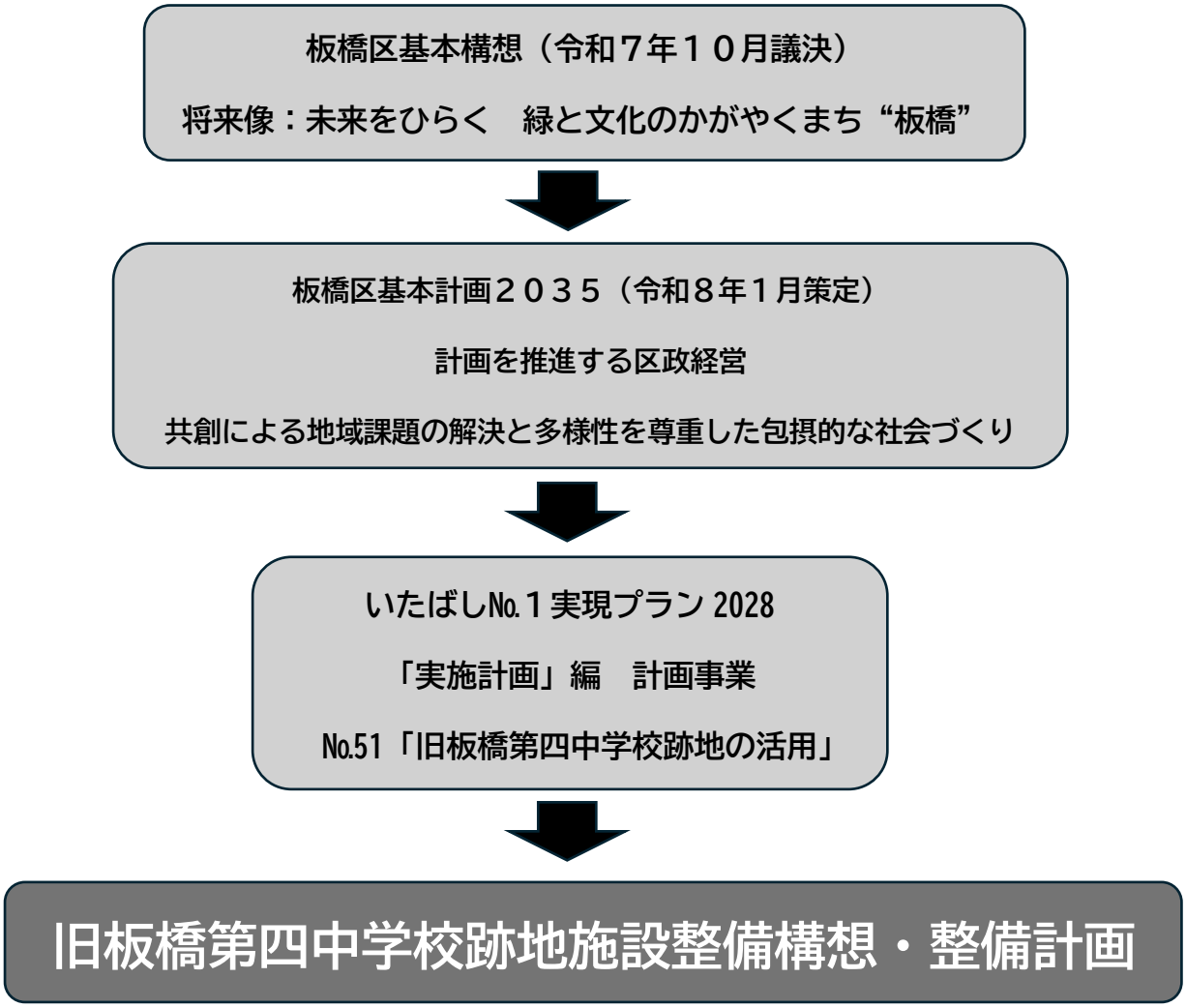
一方で、旧板四中校舎で運営をしているフレンドセンター、南部土木サービスセンターは、建設中においても継続的なサービス提供が可能となるような仮設計画・移転計画とします。

また、地域の拠点施設となるよう、現在、大和集会所内に設置されている富士見おとしより相談センター（地域包括支援センター）も新施設内に集約し、相談支援機能の充実を図るとともに、多世代交流や地域活動の推進を通じて、地域コミュニティの活性化と包括的な支援体制の強化をめざします。

複数の機能が運営される建物となることから、施設の運営時間・料金・登録要件などの運営や施設管理のルールなど、民間活力導入の可否等も含めて検討します。

本資料は、令和8（2026）年度末に策定する「旧板橋第四中学校跡地施設整備構想・整備計画」の令和8年7月時点までの検討状況をまとめた資料です。

４　本計画の位置づけ


板橋区基本構想（令和７年１０月議決）
将来像：未来をひらく　緑と文化のかがやくまち“板橋”
板橋区基本計画２０３５（令和８年１月策定）
計画を推進する区政経営
共創による地域課題の解決と多様性を尊重した包摂的な社会づくり
いたばしNo.１実現プラン 2028
「実施計画」編　計画事業
No.51「旧板橋第四中学校跡地の活用」
旧板橋第四中学校跡地施設整備構想・整備計画

第２章　旧板橋第四中学校跡地の現状と課題

１　建物・敷地の状況

旧板四中は、平成 18（2006）年３月末に閉校し、旧体育館に記念室を設置、校舎全体を文書倉庫として活用していましたが、平成 19（2007）年４月から旧校舎をフレンドセンターとして、旧体育館１階を富士見地域センターとして使用しており、平成 29（2017）年度から旧校舎１階に南部土木サービスセンターが入っています。

（１）旧校舎及び旧体育館を活用中の各施設の基本情報

① フレンドセンター・フレンドセンター体育館（旧体育館２階）

【施設概要】

施設規模		延床面積：1,626 ㎡（校舎１階から４階の一部） 887.00 ㎡（体育館２階）
運営状況		開館時間：9:00-17:00 休館日：土日祝日、冬季休業日、春季休業日 運営者：教育委員会事務局 教育支援センター ※非常時は各教室及び体育館を避難所として活用
諸室	１階	スタッフルーム、面接室、プレイルーム
	２階	スタディルーム、フューチャールーム、プライベートルーム メインルーム、図書室
	３階	相談室、ひみつきち
	４階	ランチルーム

② 南部土木サービスセンター

【施設概要】

施設規模		延床面積：607.82 ㎡（校舎１階の一部）
運営状況		開館時間：8:30-17:00 休館日：土日祝日、年末年始(12/29-1/3) 運営者：土木部 南部土木サービスセンター
諸室	１階	事務室、廊下・玄関、打合せスペース、休憩室・倉庫 資材置き場等

③ 富士見地域センター

【施設概要】

施設規模		延床面積：745.44 ㎡（体育館１階）
運営状況		開館時間：9:00-21:30 （※施設予約受付は土日祝日を除く 9:00-17:00） 休館日：年末年始(12/29-1/3) 運営者：区民文化部 地域振興課
諸室	１階	レクリエーションホール、和室、洋室、事務室、会議室兼倉庫

④　文書倉庫

【施設概要】

施設規模		延床面積：1,287.0 ㎡（校舎 1 階から 4 階の一部）
運営状況		開館時間：平時の開放なし 休館日：年末年始(12/29-1/3) 運営者：総務部 総務課
諸室	1 ~4 階	文書倉庫

⑤　旧板橋第四中学校記念品展示室

【施設概要】

施設規模		延床面積：30.0 ㎡（体育館 1 階の一部）
運営状況		開館時間：9:00~21:30 休館日：年末年始(12/29-1/3) 運営者：教育委員会事務局 新しい学校づくり課
諸室	1 階	記念室

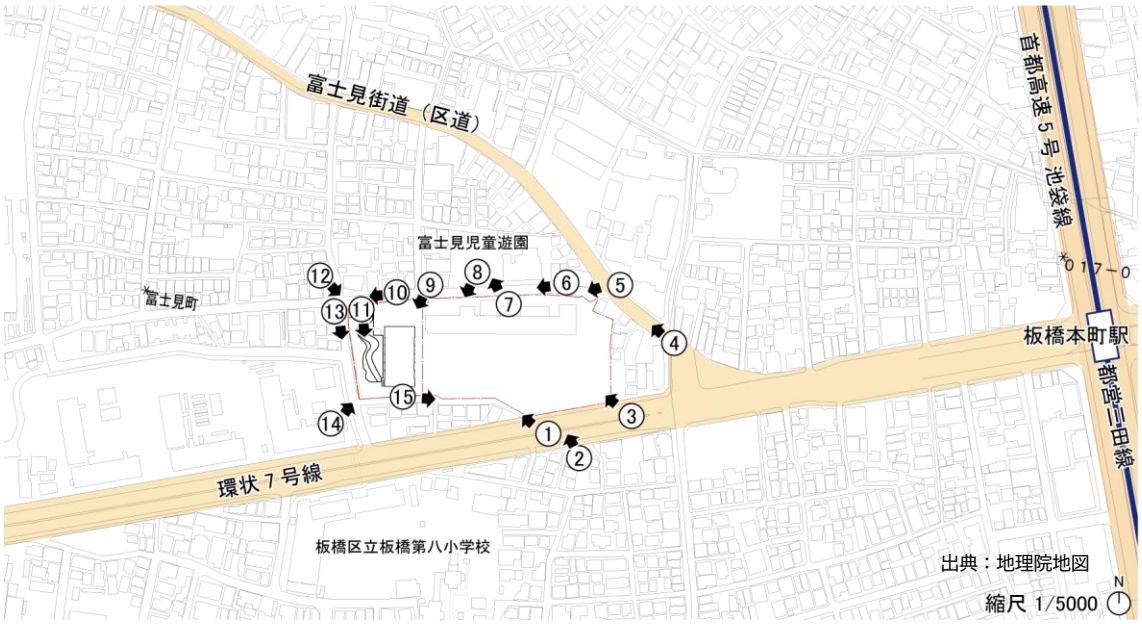
旧校庭は、平日はフレンドセンター利用者の運動の場として利用しており、空き時間に地域の方が利用しています。

東側は、南部土木サービスセンターが土木作業用の車両及び資材置場、シルバー人材センター備品置場等として利用しています。

また、板橋消防団第四分団本部が敷地に隣接して設置されています。

（２）敷地周辺状況

南側は、東京都道 318 号環状７号線に面しており、東側は、首都高速５号池袋線及び国道 17 号線、北側は、区道（富士見街道）が通っています。



【旧板四中　周辺状況図】



①南側の小路



②環状七号線（歩道）からみた敷地



③環状七号線（歩道）からみた校庭



④東側の富士見街道



⑤校門東側



⑥北側道路



⑦北側道路からみた富士見児童遊園



⑧校門西側



⑨富士見地域センター入口

【旧板四中　周辺状況図】



⑩北側道路（フレンドセンター側）



⑪体育館棟に隣接するさくらの小径



⑫板橋消防団第四分団本部



⑬西側道路



⑭南西交差点からみた敷地



⑮南側の小路

主な施設配置図



出典：地理院地図

○各施設の基本情報

① 大原生涯学習センター

【施設概要】

所在地		東京都板橋区大原町５－18
施設規模		延床面積：2,267 ㎡
運営状況		開館時間：9:00-21:30 休館日：第３月曜日、年末年始(12/29-1/3) 運営者：教育委員会事務局 生涯学習課 ※i-youth 平日　午後１時から午後９時 土曜　午前９時から午後９時 日曜・祝日　午前９時から午後５時 （区立中学校に準ずる）休業日　午前９時から午後９時
諸室	１階	i-youth エリア（ユースコーナー、ライブラリ、スタッフルーム 更衣室、相談室、スタジオ)、調理実習室、調理準備室
	２階	講義室-１、講義室-２、陶芸庫、陶芸窯、保育室、ロビー、事務室 職員用打合せスペース、ＩＣＴ学習室、職員更衣室（男女共用）
	３階	まなぽーとホール、更衣スペース、集会室１、集会室２、会議室、和室

② 富士見台児童館

【施設概要】

所在地		東京都板橋区前野町 1-8-1
施設規模		延床面積：448 ㎡（建物延床：808 ㎡）
運営状況		開館時間：9:00-17:00（月～金） ※土日祝日の 9:00-12:00 13:00-17:00 は民間委託で開放 休館日：年末年始(12/27-1/4) 運営者：子ども家庭部 子育て支援課
諸室	２階	遊戯室、キッズルーム、にこにこルーム、すくすくサロン、事務室 トイレ、倉庫、更衣室等

③ いたばし総合ボランティアセンター

【施設概要】

所在地		東京都板橋区本町 24-1
施設規模		延床面積：397.04 ㎡（建物延床：2,703.27 ㎡）旧板橋第三小校舎
運営状況		開館時間：9:00-21:30 ※無休（年末年始・点検日除く。ただし。事務局は日・月休み） 運営者：区民文化部 地域振興課
諸室	１階	事務室 68.22 ㎡、第１ボランティア・ NPO ルーム 68.22 ㎡ 第２ボランティア・ NPO ルーム 24.05 ㎡ 第３ボランティア・ NPO ルーム 22.80 ㎡ NPO サロン 68.22 ㎡
	３階	第４・第５ボランティア・ＮＰＯルーム 133.92 ㎡
	他	交流広場・駐車場 約 1,100 ㎡、その他、倉庫等

④ 富士見おとしより相談センター（地域包括支援センター）

【施設概要】

所在地		東京都板橋区大和町 26-3
施設規模		延床面積：94 ㎡　（建物延床：375.5 ㎡　大和集会所 1 階）
運営状況		開館時間：月曜日～土曜日 9:00-17：00 休館日（日曜日・祝日・年末年始） 運営者：健康生きがい部高齢政策課委託事業者アースサポート株式会社
諸室	1 階	執務室・相談室

2　旧板橋第四中学校跡地周辺の状況

（1）富士見地区の人口推移

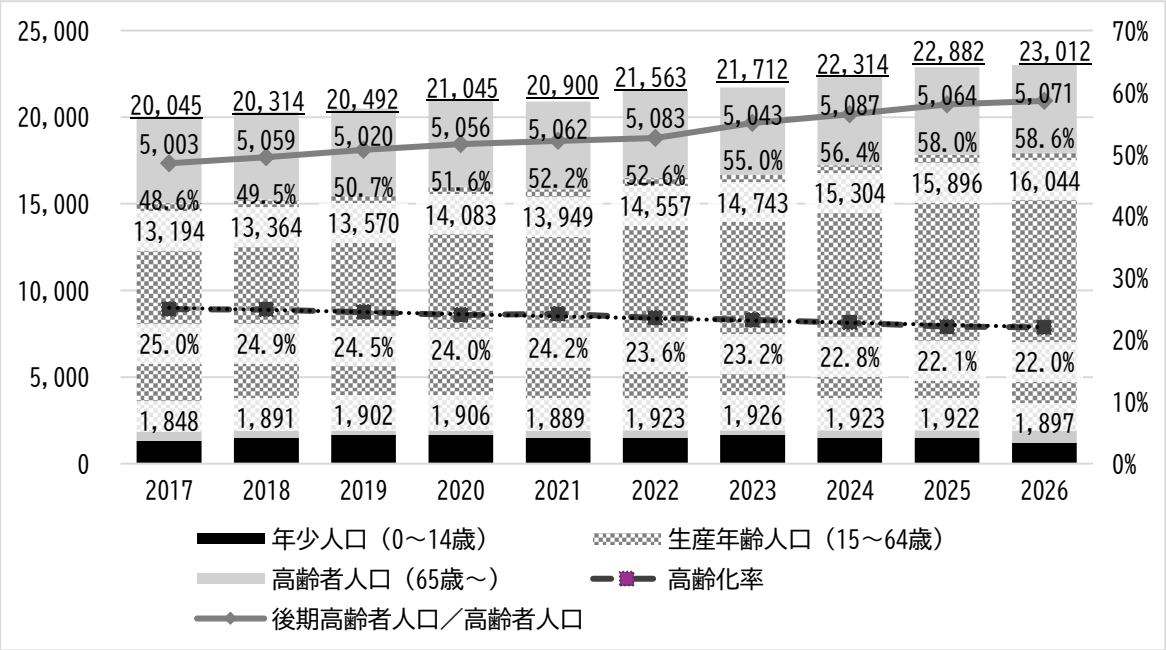
■人口構成の推移（年少人口、生産年齢人口、高齢者人口）

○　富士見地区の総人口は、この 10 年で約 3,000 人増加しています。

○　生産年齢人口・高齢者人口は増加傾向です。一方で、年少人口は 2023 年をピークに減少傾向にあります。

○　高齢化率は、この 10 年間で３％減少していますが、後期高齢化率は約 10％増加しています。

富士見地区人口構成の推移



※各年 1/1 現在の比較

３　問題点及び課題の整理

（１）各施設の利用状況及び課題

■旧板四中跡地

① フレンドセンター・フレンドセンター体育館（旧体育館２階）

<table>
<tr><td>利用実績等</td><td>
<table>
<tr><td></td><td>令和５年度</td><td>令和６年度</td><td>令和７年度</td></tr>
<tr><td>区内
不登校者数</td><td>1,344 人</td><td>1,180 人</td><td>（集計中）</td></tr>
<tr><td>フレンド
通級登録者数</td><td>246 人</td><td>185 人</td><td>181 人</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>現状・課題</td><td>○ さまざまな理由で学校へ通っていない児童・生徒に対し、体験活動や他者との交流を通じて、不安の解消や社会性の育成を支援するため、適応指導教室「板橋フレンドセンター」を運営しています。
○ 全国的に不登校者数が増加傾向にある中で、区でも様々な要因から学校で学ぶことに困難を抱えている児童・生徒が増えています。
○ 板橋区教育委員会では、これまで、児童・生徒の困りごとに寄り添い、家庭や教室以外に安心して過ごすことのできる居場所づくりを推進してきました。その中で、フレンドセンターは学校環境に抵抗感や不安を抱える児童・生徒のための重要な選択肢の一つとなっており、大学との連携やオンライン支援の開始など、児童・生徒一人ひとりの状況に応じた多様な支援体制の構築を進めてきました。
○ 「安心して過ごせる居場所」を継続的に提供するため、今後もフレンドセンター機能の拡充を図り、誰一人取り残さない学びの保障に向けて、支援を充実させていく必要があります。
○ また、不登校や不登校傾向にある児童・生徒が、社会とのつながりを維持し、多様な学びや体験の機会を得られる環境づくりが求められています。
○ フレンドセンターと他施設との複合化により、地域活動や文化・学習活動などに触れる機会が創出されることで、学校以外の場における人との関わりや自己実現につながる経験を得るきっかけとなるとともに、児童・生徒一人ひとりの状況や希望に応じた多様な選択肢を広げることが期待できます。
○ 施設の複合化にあたっては、不登校や不登校傾向にある児童・生徒が利用することを踏まえ、安心して通うことができるように、敷地内のゾーニングや動線などに配慮が必要です。
○ フレンドセンター校庭・体育館は主にフレンドセンター通級児童・生徒の運動目的で利用されています。一方、活用</td></tr>
</table>

	されていない時間帯等もあることから、施設の有効活用が求められています。 ○　現フレンドセンター体育館は下の階（富士見地域センター）へ音や振動が伝わりやすく、防音・防振性が課題です。

② 南部土木サービスセンター

利用実績等	令和３（2021）年度に土木事務所と公園事務所を統合し、土木サービスセンターへと組織改正しました。管理職以下 35 名が勤務しており、常時の維持管理を行うと共に、災害時（台風や降雪時）の活動拠点となっています。
現状・課題	○ 環状八号線を境目に南北２か所のサービスセンターがあります。南部は旧板四中校舎に暫定的に配置しており、また北部は荒川氾濫時に浸水が懸念される場所にあるため、災害時にも適切に対応できる場所・配置を検討する必要があります。 ○ 校舎の老朽化により不具合が発生（雨漏り、トイレつまり等）しており、執務室内の快適性にも室温調整などの面で課題があります。 ○ 道路・公園の修繕等に使用する資材を切断等加工する際、切断音や粉じん等が発生し、フレンドセンターの利用者や近隣に迷惑が掛からないよう、時間や場所を考慮して作業しています。

③ 富士見地域センター

利用実績等

	令和５年度	令和６年度	令和７年度
レクホール	78.3%	79.5%	77.0%
第一和室	51.0%	57.4%	59.5%
第一洋室	69.7%	71.7%	72.3%

現状・課題	○ 平成 18（2006）年度から旧体育館棟を活用し運用しています。 ○ レクリエーションホールや洋室・和室など、より利用しやすい環境整備が求められています。 ○ 集約複合化により多世代交流が生まれやすくなり、地域コミュニティの活性化に期待できます。

④ 文書倉庫

現状・課題	○ <u>今後の保管量見込みについて</u> 既存文書や収受文書の電子への原本変換や電子起案の拡大によりペーパーレス化を促進していますが、法令により紙保存が義務付けられた文書や契約、財務会計に関する書類は現時点では電子化が困難であるため、今後も紙

	文書を一定量保管していく必要があります。 ○ フレンドセンター以外の文書保存庫について 本庁舎以外に文書係が管理する文書保存庫は、フレンドセンターのほか、旧桜川いこいの家がありますが、いずれも空き容量がひっ迫しており、施設も築 50 年を超えています。また、各所属で管理している倉庫等にも文書を保存しています。

⑤ 旧板橋第四中学校記念品展示室

施設規模等	○ 富士見地域センターの一部を、旧板四中記念品展示室として位置づけています（30 ㎡・一部スペースを保管庫と兼用）。
現状・課題	○ 旧板四中の記念品が展示されており、希望者は見学可能です。年間 10 名程度の来場者がいます。 ○ 地域や卒業生などの思い出が、未来へ継承できるような整理が必要です。

⑥ 避難所等防災機能

施設規模等	○ 旧板四中は地域防災計画において避難所として指定されています。 ○ フレンドセンターの各教室及び体育館を避難スペースとして活用を想定しています。
現状・課題	○ 地域防災計画において、指定避難所は原則として、町会・自治会又は学区を単位として指定することとしています。 ○ 富士見地区の避難所は、旧板四中（フレンドセンター）と環状七号線の反対側に位置する板橋第八小学校の２か所のみであり、機能存続が必須です。 ○ 避難所として指定されている２階の体育館には空調機・昇降機が無く、また老朽化も進行していることについて、地域から課題の早期解決の要望を受けています。 ○ こうした状況に鑑み、避難所機能を存続するとともに、環状七号線に隣接している立地を生かし、物資の運搬・備蓄が可能な道路接道や防災備蓄倉庫を整備することが望ましいです。

■周辺・関連公共施設

① 大原生涯学習センター

利用実績等

年度	利用者数	（うち i-youth 利用）
令和５年度	64,679 人	13,963 人
令和６年度	64,226 人	15,966 人
令和７年度	72,350 人	19,259 人

現状・課題

○ 社会教育の実現を担う、安定した社会教育主事の任用と育成体制、活動場所である生涯学習センターの老朽化への対応が重要な課題です。

○ 令和６（2024）年２月に生涯学習センターのあり方検討結果をとりまとめ、「若者支援の方向性（若者支援機能の強化）」「生涯学習課所管施設との相乗効果による機能強化」「民間活力の導入によるサービス向上」という３点の機能強化を掲げています。

○ i-youth について、平日は午後・夜間の時間帯に開館しており、土曜・日曜の利用も多いため、他の施設との一部共用等、利用ニーズに応えるための工夫が必要です。

○ 音楽やダンス、運動など体を動かす場所と、学習や創作活動をする場所、飲食スペースや交流スペースなど多様なニーズに対応できるよう、防音対策や動線、設備環境に配慮をしながらの検討が必要です。

② 富士見台児童館

利用実績等

	令和５年度	令和６年度	令和７年度
未就学児	12,576 人	9,939 人	10,676 人
保護者	9,747 人	7,960 人	8,585 人
小学生	665 人	552 人	608 人
中学生	24 人	27 人	25 人

現状・課題

○ 「いたばし子ども・若者・子育て応援プラン 2030」に基づき、児童館の 18 地区への基本配置の観点から、現在、未整備となっている富士見地区への整備として、富士見台児童館を移転します。

○ これまで同様、主な対象を乳幼児親子としつつ、より身近に子育てについて相談できる場として、児童館を国の制度である「地域子育て相談機関」に位置付け、人材の育成及びＤＸの活用等に取り組むとともに、こども家庭センター機能との連携強化を図ります。

	○ 移転にあたっては、i-youth との連携も視野に、中高生を含めた多世代交流機能の付加について検討します。 ○ 地域子育て相談機関としての位置付けにあたり、独立した相談室の整備等を含めた適切な相談体制の構築が必要です。 ○ おむつ交換台や授乳室が個室内に整備されていないため、プライバシーに配慮した空間が必要です。 ○ 現在の富士見台児童館は２階にありますが、エレベーターがないためベビーカー等での移動が困難です。そのため、ユニバーサルデザインに配慮したハード整備とともに、ベビーカー置き場の確保が求められています。

③ いたばし総合ボランティアセンター

利用実績等

○ ボランティア・ＮＰＯ登録団体は、無料で各室を利用可能。

【各室利用実績】

		令和５年度	令和６年度	令和７年度
第１ルーム	人数	7,763 人	8,259 人	9,522 人
第２ルーム	人数	6,692 人	5,885 人	6,604 人
第３ルーム	人数	3,861 人	3,942 人	3,476 人
第４ルーム	人数	9,693 人	9,311 人	9,930 人
第５ルーム	人数	4,112 人	4,006 人	4,595 人

【その他実績】

		令和５年度	令和６年度	令和７年度
交流広場	団体数	53 団体	374 団体	120 団体
	人数	8,492 人	8,481 人	6,744 人
ＮＰＯサロン	団体数	1,538 団体	1,293 団体	1,264 団体
	人数	3,561 人	2,566 人	3,196 人

現状・課題

○ 「いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン 2030」を令和５（2023）年 12 月に策定し、課題は以下のとおりです。

- ビジョンに掲げる将来像を実現するための方策の一つとして、「活動拠点の充実」を掲げています。
- 施設や設備の老朽化が激しく（雨漏り、机や椅子のガタつき等）、セキュリティも含め施設管理業務が負担となっています。
- 日中利用が多く、貸室が飽和状態となる時があります。

	➢ 小豆沢体育館の災害ボランティア本部以外にも、災害ボランティアのサブ拠点としての空間の確保（物資の備蓄やボランティアの滞在スペース等）が課題となっています。

④ 富士見おとしより相談センター（地域包括支援センター）

利用実績等	<table><tr><th></th><th>令和５年度</th><th>令和６年度</th><th>令和７年度</th></tr><tr><td>総合相談件数</td><td>4,064 件</td><td>3,668 件</td><td>3,307 件</td></tr><tr><td>うち来所相談件数</td><td>577 件</td><td>528 件</td><td>469 件</td></tr></table>
現状・課題	○ 富士見おとしより相談センターは、令和４年に常盤台１丁目より現在の大和集会所内に移転してきました。 ○ 執務スペースは、大和集会所の既存スペースを活用して運営しています。 ○ 大和集会所は、住宅地の中に立地しており、区民が来所する際に場所がわかりにくいといった意見があります。 ○ 現在の執務スペースは、業務を前提として整備されたものではないことから、来所者から執務内が見えてしまうため、防犯面やプライバシー保護の面で課題があります。

⑤ 体育施設

配置状況等	○ 区内のスポーツ施設の配置状況は以下のとおりです。 ➢ 屋内体育施設：５箇所（小豆沢・加賀・赤塚・上板橋・高島平） ➢ 野球場：６箇所（小豆沢・城北・荒川河川敷・徳丸ヶ原・東板橋・赤塚） ➢ サッカー場：３箇所（荒川河川敷・高島平・浮間舟渡※） ※フットサルのみ ➢ 陸上競技場：２箇所（新河岸・荒川河川敷） ➢ 庭球場：５箇所（小豆沢・加賀・東板橋・徳丸ヶ原・新河岸） ➢ 和洋弓場：各１箇所（小豆沢・東坂下）

<table>
<tr><td>利用実績等</td><td>○ サッカー等で利用可能な施設の利用者数
（グラウンドゴルフ等他競技含）
<table>
<tr><td></td><td>令和５年度</td><td>令和６年度</td><td>令和７年度</td></tr>
<tr><td>荒川戸田橋</td><td>33,200 人</td><td>38,318 人</td><td>36,574 人</td></tr>
<tr><td>高島平多目的</td><td>21,482 人</td><td>22,472 人</td><td>22,891 人</td></tr>
<tr><td>浮間舟渡
（ﾌｯﾄｻﾙのみ）</td><td>5,977 人</td><td>9,342 人</td><td>8,831 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>現状・課題</td><td>○ 板橋区ラグビー協会・板橋区サッカー協会からそれぞれ公式戦を実施できる人工芝のグラウンドを設置してほしい旨の要望を受けています。
○ 現在、サッカーで利用できる施設は３か所ありますが、競技人口に対して施設数が少ない状況です。
○ かわまちづくりの一環として、荒川戸田橋陸上競技場をラグビー利用も可能な施設として再整備する計画がありますが、現在利用している他競技（サッカー、陸上など）とのニーズ重複や、再整備予定地が荒川河川敷内であることから人工芝の使用が困難である等の課題があります。</td></tr>
</table>

⑥ 公園・児童遊園

<table>
<tr><td>配置状況等</td><td>現在、富士見地区には都市公園９か所、準公園施設１か所が設置されています。</td></tr>
<tr><td>現状・課題</td><td>○ 富士見地区を含む「板橋・大山エリア」では、公園面積、緑被率が区内で最も小さいことから、商店街や住宅地、公共空間などの街並みと調和した身近なみどりやオープンスペースの整備が必要です。</td></tr>
</table>

⑦ 防災関連施設

<table>
<tr><td>配置状況等</td><td>○ 国や都、他自治体等から輸送される支援物資等を集約する「地域内輸送拠点」として、以下の３施設を位置づけています。
<table>
<tr><td>施設</td><td>住所</td></tr>
<tr><td>災害時配送ステーション
※MFLP・LOGIFRONT 東京板橋２階</td><td>舟渡 4-3-1</td></tr>
<tr><td>区立小豆沢体育館</td><td>小豆沢 3-1-1</td></tr>
<tr><td>区立上板橋体育館（予備）</td><td>桜川 1-3-1</td></tr>
</table>
○ 区内で大規模災害が発生した際、区と区社会福祉協議会が締結した「災害時におけるボランティア支援活動等に関する協定書」に基づき、区と区社会福祉協議会等が連携し、「いたばし災害ボランティアセンター」を小豆沢体育館に設置します。</td></tr>
</table>

現状・課題	○ 災害時配送ステーションは、国や都からの支援物資等を集約する機能としての活用を想定していますが、荒川氾濫時の浸水区域に該当するため、水害時には地域内輸送拠点として有効活用しづらい課題があります。 ○ また、小豆沢体育館は他自治体、災害時協定自治体・事業者からの支援物資等を集約する機能としての活用を想定していますが、トラックバースやフォークリフトなどがないため大量の物資を荷捌きすることが難しい等、運営面に課題があります。 ○ 発災時には、いたばし災害ボランティアセンターと板橋区災害対策本部（区役所本庁舎）や区社会福祉協議会と容易に連携できるような仕組みが求められています。

（2）跡地活用にかかる検討課題

（1）の各施設の利用状況及び課題を踏まえ、跡地施設整備計画で検討すべき重要課題を以下のとおり整理します。

■空間・整備機能の最適化

○ 多目的スポーツ広場や生涯学習センター、地域センター、フレンドセンターなどの様々な機能について、親和性の高い機能は近接し連携や相乗効果を図る一方、施設の活用エリアや動線に配慮が必要な機能は適切に分離を図るなど、異なる機能の適切な配置を検討する必要があります。

○ 児童館・生涯学習センターのあり方を踏まえ、子ども・若者の創造性をはぐくむ居場所・活動支援機能の充実と、地域センターにおける地域コミュニティ活性化に資する多世代交流拠点機能との複合化によってめざすべき相乗効果を検討していく必要があります。

■運営の時間的柔軟性

○ 多種多様な機能を複合化するため、例えば平日と休日、日中と夜間など、曜日や利用時間帯によって変化するニーズへ柔軟に対応し、空間を効率的に活用する運営計画の検討を行う必要があります。

○ 多目的スポーツ広場や体育館スペースなど、同一空間のゾーン分けを含め、多目的な利用を可能にする運営方法を検討していく必要があります。

■防災機能の両立

○ 旧板四中は避難所に指定されており、発災時は近隣住民が避難生活を送る場所となります。また、敷地内に防災備蓄倉庫や板橋消防団第四分団倉庫があることから、地域の防災拠点としての引き続きの活用が望まれています。そのため、平時利用と災害時の防災拠点としての機能の両立を検討する必要があります。

○ 旧板四中に接している環状七号線は、震災時に避難や救急・消火活動、緊急物資輸送の大動脈となる「特定緊急輸送道路」に指定されています。そのため、災害時の運用など、区の防災力強化にかかる課題解決を図るため、有効活用していく必要があります。

■地域資源の保存

○ 敷地内に植えられた「カンザクラ」は、旧板四中閉校を機に植樹され、地域の宝として大切にされています。そのため、さくらの小径など、地域に愛されている景観要素の保存へ配慮していく必要があります。

○ 旧板四中グラウンド部分で毎年 10 月に開催する「富士見まつり」や３月に開催する「さくらの小径まつり」など、地域に根差した行事が継続できるよう、ハード・ソフト両面で空間整備を検討していくことが重要です。

第３章　施設整備構想

１　基本方針・基本理念

（１）基本方針・基本理念の考え方

○ 令和７（2025）年 10 月に区議会で議決された「板橋区基本構想」は、令和８（2026）年度から概ね 10 年後の区の将来像として「未来をひらく 緑と文化のかがやくまち”板橋”」を定めています。また将来像を実現された街の姿として「誰もが幸せを実感している」「つながりと愛着がはぐくまれている」という２つの具体的なまちの姿を掲げています。

○ この基本構想を実現するためには、区の重要な資産である学校跡地を戦略的に活用し、将来像を具現化する拠点として整備することが不可欠です。そのため、施設整備構想では、区の最上位計画である基本構想と連携・整合を図ることで、区全体の持続的な発展と地域の特性を活かした施設づくりを両立していきます。

○ 特に、基本構想に示された３つの基本理念「ひと（個人）」の視点「あたたかいこころで ともに歩む」、「まち（地域）」の視点「笑顔あふれるまちをみんなでつくる」、「みらい（環境）」の視点「ゆたかな環境を 未来へつなぐ」は、本施設整備においても中核となる価値観として継承します。

○ 活用方針で整理した「若者・地域交流拠点」「多目的スポーツ広場」「多様な学びの場」「防災力の強化」という４つの視点は、基本構想の３つの理念を具体化するものであり、これらを統合することで、区の将来像実現に直接貢献する施設をめざします。

○ また、本施設は、単なる公共サービスの提供場所ではなく、区がめざす「創造都市（クリエイティブシティ）」※の考え方を体現する先導的モデルとして、多様な人々の創造性をはぐくみ、新たな価値を生み出す居場所づくりを推進することにより、区の未来をデザインする重要な拠点となることをめざします。

（２） 基本方針

持続可能な地域のつながりと愛着をはぐくむ

ひと と まち をつなぐ　みらい創造・交流拠点

※ 区民一人ひとりのアイデアや工夫を原動力に、地域に新しい価値やあたたかなつながりを創り出し続けるまちのあり方。

（3） 基本理念

活用方針及び板橋区基本構想の「基本理念」を踏まえ、旧板四中跡地施設整備基本構想の基本理念等を以下のとおり示します。

「ひと（個人）」



居場所空間の創出

子ども・若者・子育て世代が背景を問わず集い、
自分らしく過ごせる居場所空間の創出

- 想定機能：フレンドセンター（体育館含む）、CAP'S富士見台児童館、大原生涯学習センター(i-youth含む)

「まち（地域）」



共創空間の構築

「創造」を核として地域・多世代の交流を促進し、
誰もがともに学び・教えあう共創空間の構築

- 想定機能：富士見地域センター、大原生涯学習センター(i-youth含む)、ボランティアセンター、多目的スポーツ広場

「みらい（環境）」



災害拠点の整備

区民の生命・財産を守るため、災害時を想定して
すべての人が安心・安全を実感できる災害拠点の整備

- 想定機能：南部土木サービスセンター、ボランティアセンター、避難所、防災備蓄倉庫

第４章　施設整備計画の検討状況

施設整備構想で定めた基本方針・基本理念について、令和８年（2026）年5月22日と23日に富士見地域センター及び本町集会所の2か所で、中間のまとめを資料とし、説明会を開催しました。

また、6月6日に大原学習センターで開催された「まなぽーと大原フェスティバル」にて「旧板四中の跡地にできる新しい施設でどんなことがしてみたいか」を題材に、ワークショップを開催、翌7日は前日のワークショップにおいて出された意見とともにパネル展示を行い、アンケートを実施しました。

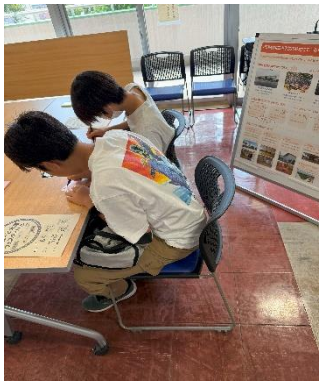
●説明会時の主な意見

- 広場・グラウンドを残してほしい
  - 今の開放的な広場を大切にしてほしい。
  - 建物屋上をスポーツ広場にするのは、様々な懸念がある。
- 少年野球や、子どもの遊び場を確保してほしい
  - 子どもたちが、のびのび遊べる環境を守ってほしい。
  - ボール遊びができる場所になると良い。
- 地域イベントや、コミュニティ活動を継続したい
  - お祭りや防災訓練など、地域のつながりを大切にしてほしい。
  - 建物上部の広場にすると、資材搬入や準備が大変になるのではないか。
- 住民参加を大切にしてほしい
  - 地域の声を反映し、一緒に考えてほしい。
  - 住民参加型で検討してほしい。
- 施設の具体的なイメージを示してほしい
  - 将来の姿を分かりやすく説明してほしい。

●まなぽーと大原フェスティバルワークショップの主な意見

天井の高い体育館でバドミントン、グラウンドでサッカーの公式試合などスポーツ・健康づくりに関する意見が多く集まりました。

また、友達と集まれる場所や、勉強できるスペース、個室空間などの放課後の居場所や学習スペースに関する意見、ゆっくりと過ごせ、地域の方との交流もできる空間、音楽活動や映像設備のある部屋、休日も利用しやすく飲食も可能な場所という意見もありました。また、駐車場の整備や施設整備への意見もありました。





施設整備検討状況に対する地域の思い、施設利用者の新施設への思いを確認し、新施設のコンセプトを次のように示し、整備計画の検討を進めていきます。

■新施設のコンセプト

「未来　共創　交流拠点」
～想いをつなぎ、未来をかたちに～





「自分の好きが日常になる」

「やってみたいが自然に育つ」





「つながりが未来をはぐくむ場所」

「交流から生まれる新しい地域」



1　建物構造・機能

（1）検討事項

○ 地域に親しまれている、さくらの小径の保存や、「富士見さくらの小径まつり」などの地域行事が継続できるよう、動線やゾーニング案を検討する必要があります。

○ フレンドセンター機能の出入口や施設配置など、プライバシーに配慮された空間整備を検討するとともに、過度に隔離された印象にならないあり方も重要と考えます。

○ 旧板四中は、環状七号線に接する好立地です。この強みを生かし、地域の防災力はもとより、区全体の防災力強化を図る機能として、非常時に国や都からの支援物資を積んだ大型トラックなどをスムーズに受け入れ可能な「地域内輸送拠点機能」の整備を検討します。

○ 児童館・i-youth のあり方検討の結果を踏まえ、子ども・若者及び多世代交流を推進する拠点機能を検討し、つながりの居場所を含めた、施設のめざす姿と機能の具体化に必要となる空間・設備などを検討していく必要があります。

（2）集約・複合化のメリット

①利用面

■多世代交流

単一機能では利用者世代が限られますが、複合施設では子どもから高齢者まで幅広い世代が集う機会が増え、共有スペースに留まらず、様々な活動や日常利用を通じて自然な交流が生まれることが期待されます。

■多機能化による利便性向上

「子どもを遊ばせる」「サークル活動をする」といった複数の目的を実施することが１箇所で可能となり、利便性の向上が期待できます。

■居心地のよい空間の提供

カフェや一部フリースペースを併設することで、用事がなくても滞在できる「居場所」として機能します。

②整備・運用面

■コストの縮減（建設・維持管理）

共用部（エントランス、廊下、トイレ、駐車場など）や設備を共有化することで、別々に建てるよりも延べ床面積を圧縮でき、建設コストや光熱費削減が期待できます。

■スペースの有効活用

利用時間のピークが異なる機能の組み合わせを最適化することで、スペースを効率的に活用することができます。

2　運営方針

○ 各施設における多様な機能が融合し、相互連携が促進される空間など、複合施設のメリットを最大限活かすため、最適な運営計画や推進体制を検討していきます。

○ 生涯学習センターや地域センター、いたばし総合ボランティアセンターなど、施設利用者の団体登録の要件等を改めて整理し、適切な運営・料金体系を設定していきます。

○ フレンドセンター利用者など、多くの利用者に配慮するため、多目的スポーツ

広場などは曜日・時間帯に応じて開放時間を切り替えることができるよう検討を進めていきます。

※具体的な運営方針は、令和９年度・10 年度にかけて作成する、管理運営計画において検討を進めていきます。

３　施設整備の考え方

（１）機能構成と想定規模

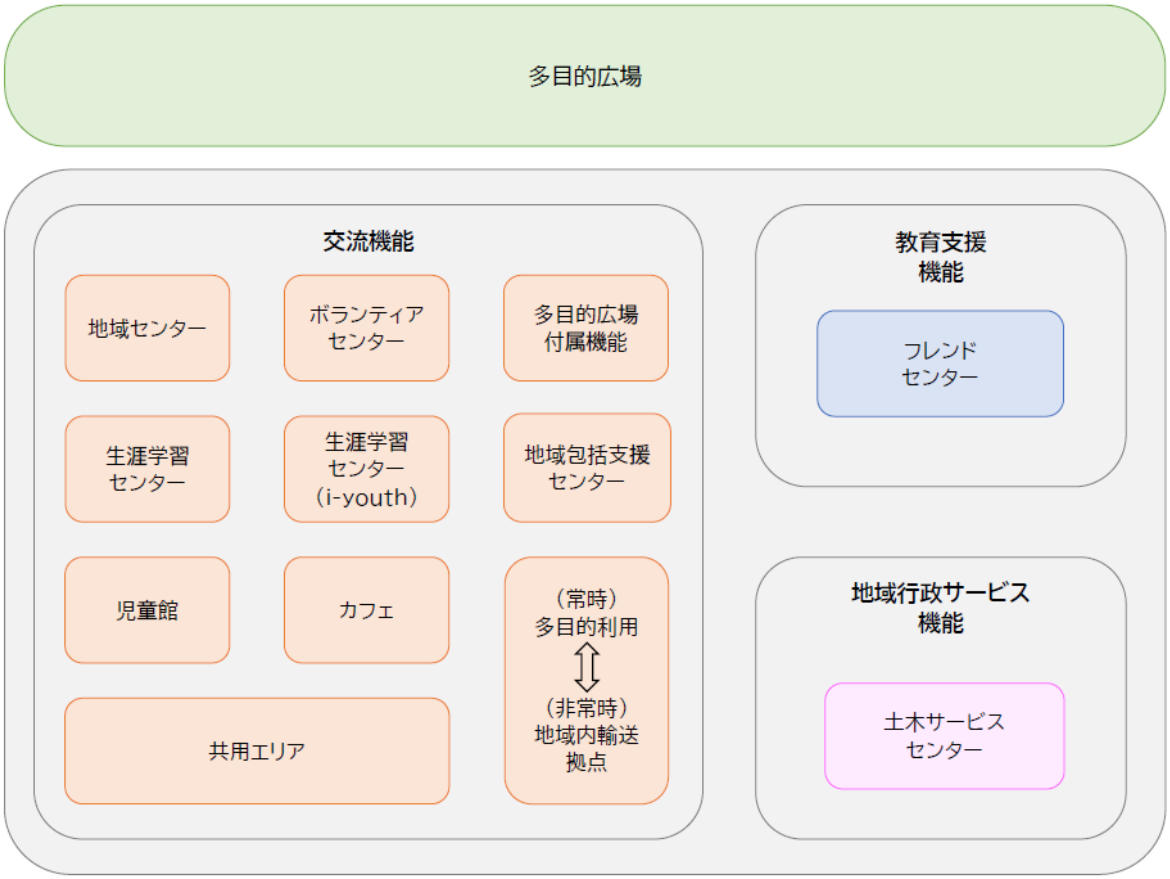
○ 本施設で整備する諸室は、大きく「交流機能」「教育支援機能」「地域行政サービスセンター機能」の３つの機能に分けられます。本計画時点での各エリアの想定規模を以下に例示します。本施設の規模は、全体で約 9,670 ㎡程度を想定しています。

○ 想定面積は、引き続き、利用時間のピークを加味した諸室のタイムシェアの検討や、複数機能での貸室等のシェアの検討を踏まえて、決定していきます。

○ なお、基本設計以降の詳細検討により変更となる可能性があります。

機能名	諸室エリア	主な内容	想定規模	小計
交流機能	地域センター	ホール・各種貸室・事務室・倉庫等	約 445 ㎡	約 6,880 ㎡
	ボランティアセンター	NPO ルーム・NPO サロン・事務室等	約 450 ㎡	
	児童館	遊戯室・乳幼児室・事務室等	約 385 ㎡	
	生涯学習センター	ホール・各種貸室・事務室等	約 1165 ㎡	
	生涯学習センター（i-youth）	スタジオ・ユースコーナー・事務室等	約 620 ㎡	
	地域包括支援センター	相談コーナー・事務室等	約 100 ㎡	
	カフェ	カフェ	約 200 ㎡	
	多目的広場・付属エリア	スポーツひろば、更衣室等	約 300 ㎡	
	（常時）多目的利用 （非常時）地域内輸送拠点エリア	※常時は多目的に利用を想定 物資仕分けスペース・常時備蓄スペース・荷下ろしスペース等	約 960 ㎡	
	共用エリア	エントランスホール・ロビー・廊下・階段・EV・WC・倉庫・設備関係等	約 2255 ㎡	
教育支援機能	フレンドセンター	学習室・プレイルーム・図書室・ランチルーム・体育館・面接相談・スタッフルーム・廊下・WC 等	約 2380 ㎡	約 2,380 ㎡
地域行政サービス機能	土木サービスセンター	事務室・打合せスペース・資材置場・休憩室・廊下等	約 410 ㎡	約 410 ㎡
施設全体				約 9,670 ㎡

【施設の主な構成イメージ】



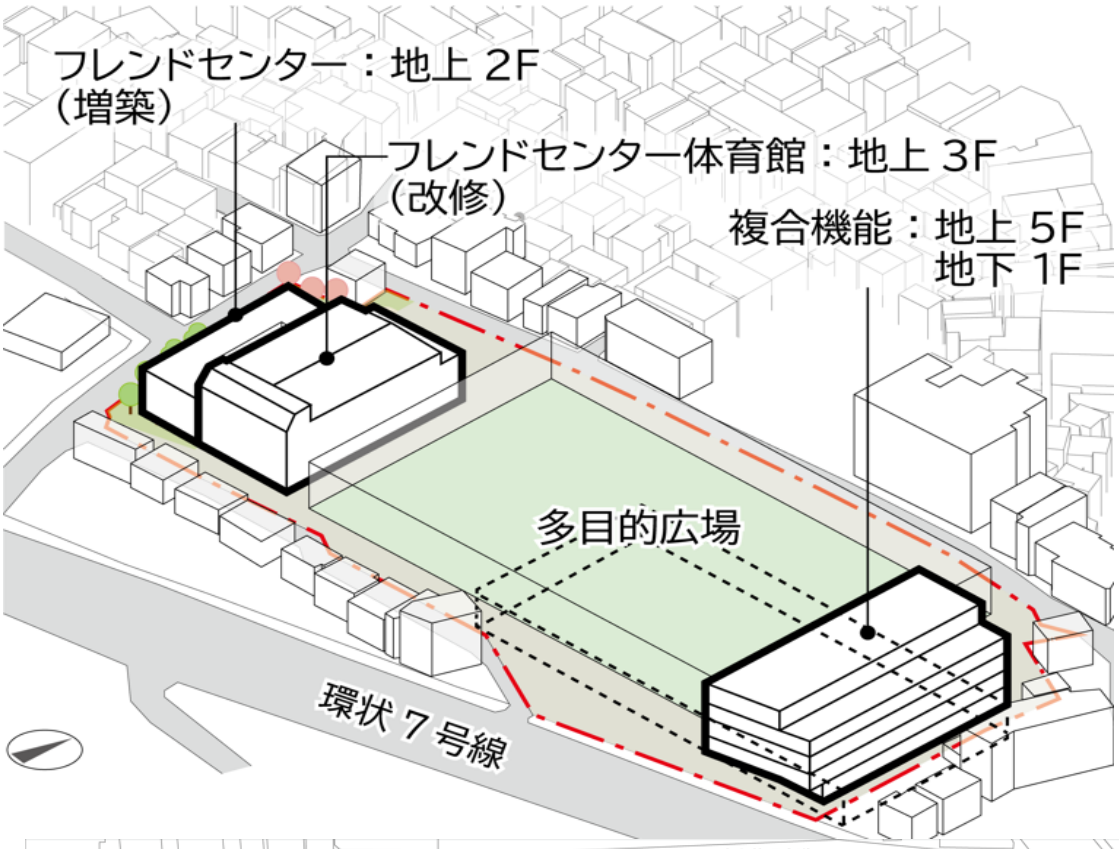
（２）施設配置の検討について

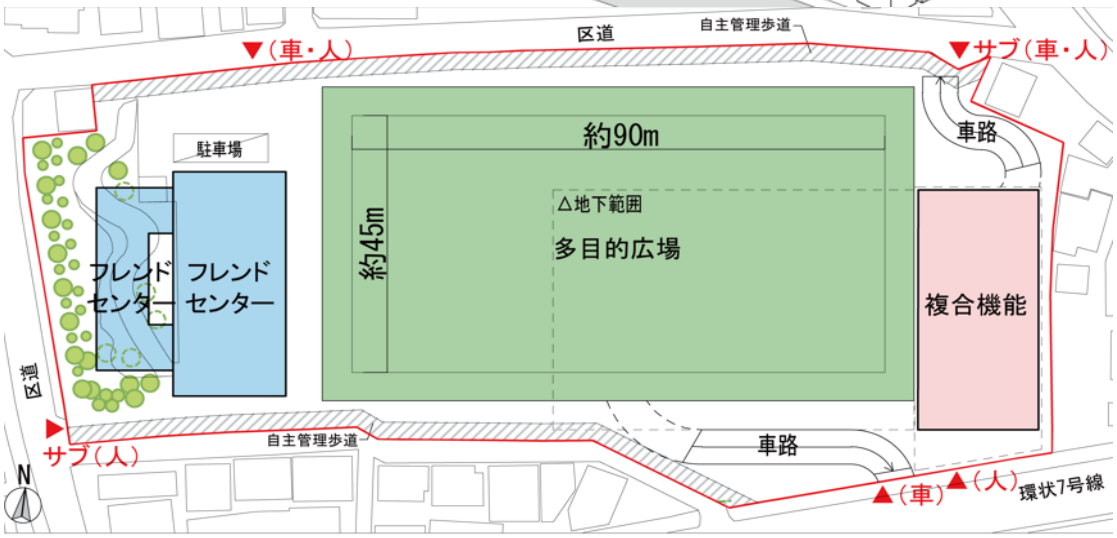
集約・複合化した施設の配置について、検討を進めています。

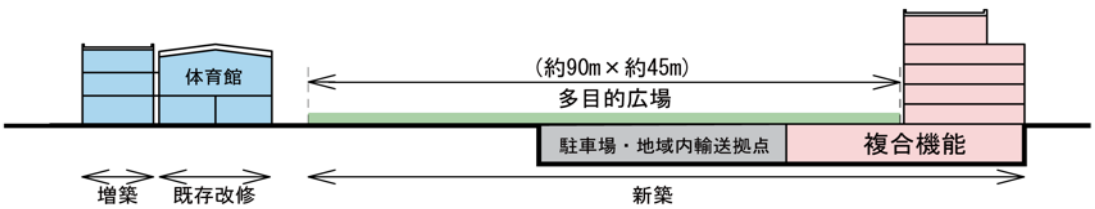
最終的な建物配置については、原案でお示しします。

非常時の交流機能エリア・教育支援機能エリアの避難所・地域内輸送拠点への機能転換についての諸室設えや運営の考え方については、管理運営にも係わることから、管理運営計画と一緒に検討を進めます。

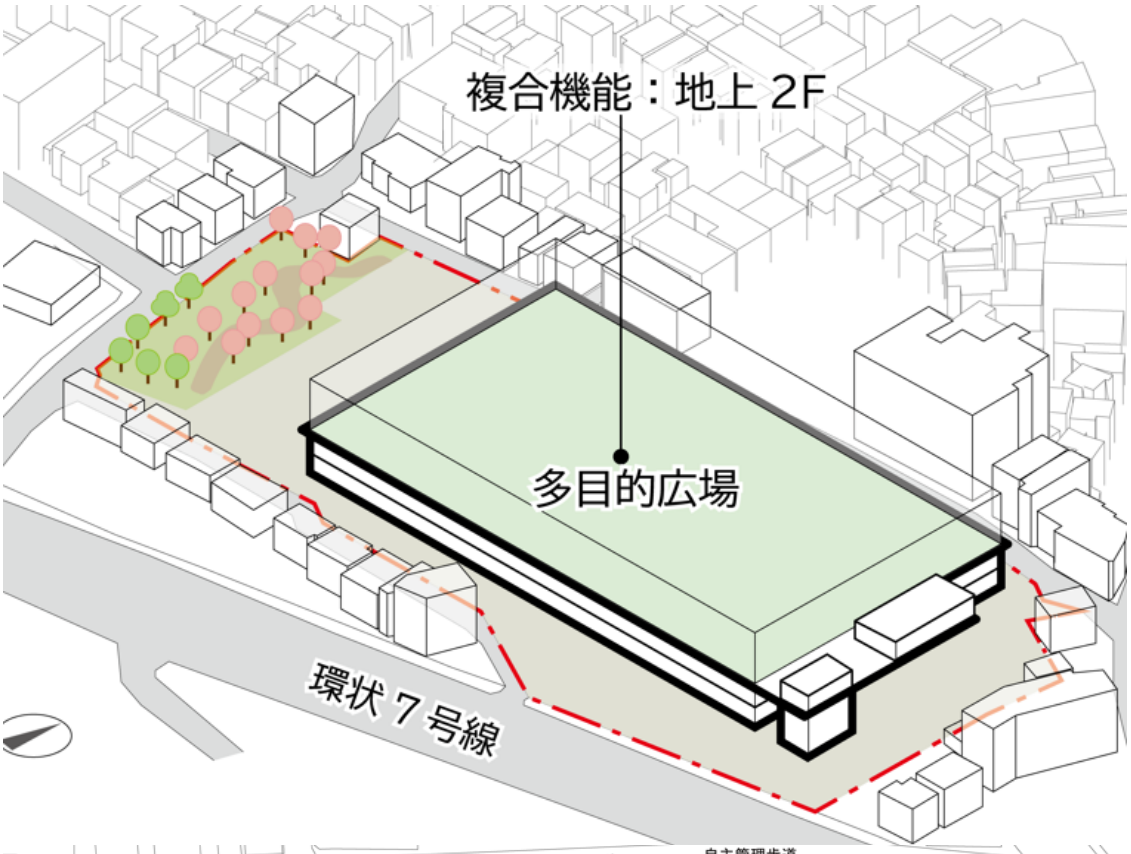
【パターン①】

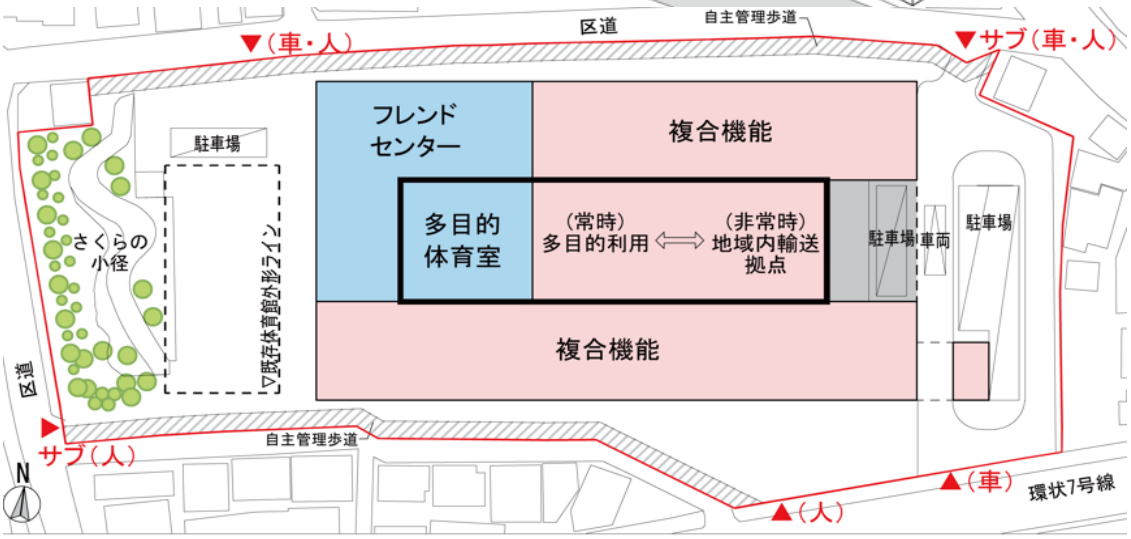

フレンドセンター：地上 2F
（増築）
フレンドセンター体育館：地上 3F
（改修）
複合機能：地上 5F
地下 1F
多目的広場
環状７号線

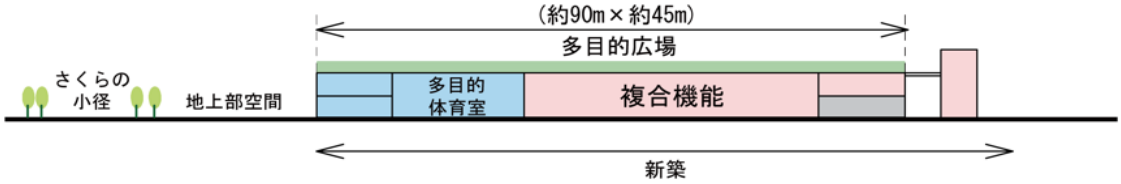

区道
自主管理歩道
▼（車・人）
▼サブ（車・人）
駐車場
約90m
車路
△地下範囲
多目的広場
約45m
フレンドセンター
フレンドセンター
複合機能
区道
▶サブ（人）
自主管理歩道
車路
N
▲（車）▲（人）
環状7号線


体育館
（約90m×約45m）
多目的広場
駐車場・地域内輸送拠点
複合機能
増築
既存改修
新築

【パターン②】


複合機能：地上 2F
多目的広場
環状７号線


区道
自主管理歩道
▼（車・人）
▼サブ（車・人）
駐車場
フレンド
センター
複合機能
多目的
体育室
（常時）
多目的利用
（非常時）
地域内輸送
拠点
駐車場
車両
駐車場
さくらの
小径
既存体育館外形ライン
区道
サブ（人）
自主管理歩道
N
▲（車）
▲（人）
環状7号線


（約90m×約45m）
多目的広場
さくらの
小径
地上部空間
多目的
体育室
複合機能
新築

【比較検討】

	パターン①	パターン②
検討内容	各施設の機能を１つの建物に集約し、多機能な複合施設として整備。多目的広場を現在の旧校舎・旧校庭部に整備し、フレンドセンターを現在の旧体育館及びさくらの小径に新たに整備する。また、防災機能を地下に設置をし、災害時の輸送動線をしやすい整備をする。	各施設の機能を１つの場所に集約し、現在の旧校舎･旧校庭部に整備。多目的広場を建物上部に配置し、旧板四中跡地の周囲に新たな空間を整備する。防災機能も地上に整備し、災害時の輸送動線を道路と同じ高さに設け、迅速な対応が可能となるよう整備をする。
敷地	敷地内全面の改修が必要であり、現在設置をしている全ての施設の仮移転が必要。現在の形でのさくらの小径の保存は困難。	富士見地域センター、旧体育館は新施設整備が完了するまでは、既存施設での運営が可能。さくらの小径の保存が可能。
事業・地域活動	活動は同一建物内で完結するものの、地上５階建てであることから、階層間の移動が発生する。	広い空間内で目的に応じた活動が可能。
多目的広場	地域のイベント等が開催されていることが通行人からも目につきやすく、参加しやすい。	屋上広場と地上広場の２か所の整備をすることで、多様な活動が可能となる。地域イベント等は開催の仕方に工夫が必要。
景観	敷地内の左右に建物となり、複合施設側は階高となる。中央部に多目的広場があることで、解放感がある。	敷地内中央部に建物となり、建物上部に多目的広場用ネットなどが設置されるが、敷地周辺には空間が生まれる。
防災性	防災機能を他施設と分離することで管理のしやすさがあるが、災害ボランティアの活動や輸送の地下動線など整理が必要。地階があるため、豪雨時の地下流水を防ぐための止水対策が必要。	平時に通常利用している空間内を災害時にどう使うか、定期的な訓練が必要。地上での物資搬出入がしやすく迅速な対応が可能。 豪雨時の屋上広場の雨流対策が必要。
維持管理	複合施設とフレンドセンターが別棟になることからセキュリティ管理がしやすい。日々の施設点検の仕方など、整理が必要。建物ごとの管理人員の配置が必要。	１つの施設内にすべての機能が融合されることから、一括管理の部分と個別部分の管理と区別が必要。建物が１つになることで集中管理が可能となる。
建築及び工事期間	地下を掘削し地下壁を建築する必要がある。現施設の仮移転先の確保、樹木等の配置再編が全面的に必要となる。敷地内全体の工事が必要。	旧校舎を解体後に新施設を建設後、旧体育館を解体することから、一部現施設の仮移転は不要。樹木等も一部既存のまま残すことが可能。
費用	１：0.9	

（2）各エリアの構成

○　各エリア内の室や面積は、原案でお示しします。

4　外構計画

○　外構計画として整備する機能は以下の通りです。

項目	整備方針
駐車場の整備	施設運用に必要なサイズの車両・台数を踏まえながら、板橋区大規模建築物指導要綱、及び東京都駐車場条例による規制に従う台数以上の駐車場を整備します。
駐輪場の整備	施設運用に必要な台数を踏まえながら、板橋区大規模建築物指導要綱による規制に従う台数以上の駐輪場を整備します。
緑化計画	さくらの小径の保存を基本方針とします。その他、本計画は東京都板橋区緑化の推進に関する条例、及び東京における自然の保護と回復に関する条例の規制を受けるため、それぞれに適合した緑化面積・接道緑化長さを計画します。
2 項道路の整備	旧板四中の南側の一部は、建築基準法 42 条 2 項に示す道路であるため、本計画に合わせて拡幅整備します。
自主管理歩道の整備	本計画は板橋区大規模建築物指導要綱による規制を受けるため、要綱に従い、幅員 3m の常時一般に解放された自主管理歩道を敷地接道部（現況歩道がない道路）に整備します。

5　その他整理すべき検討課題

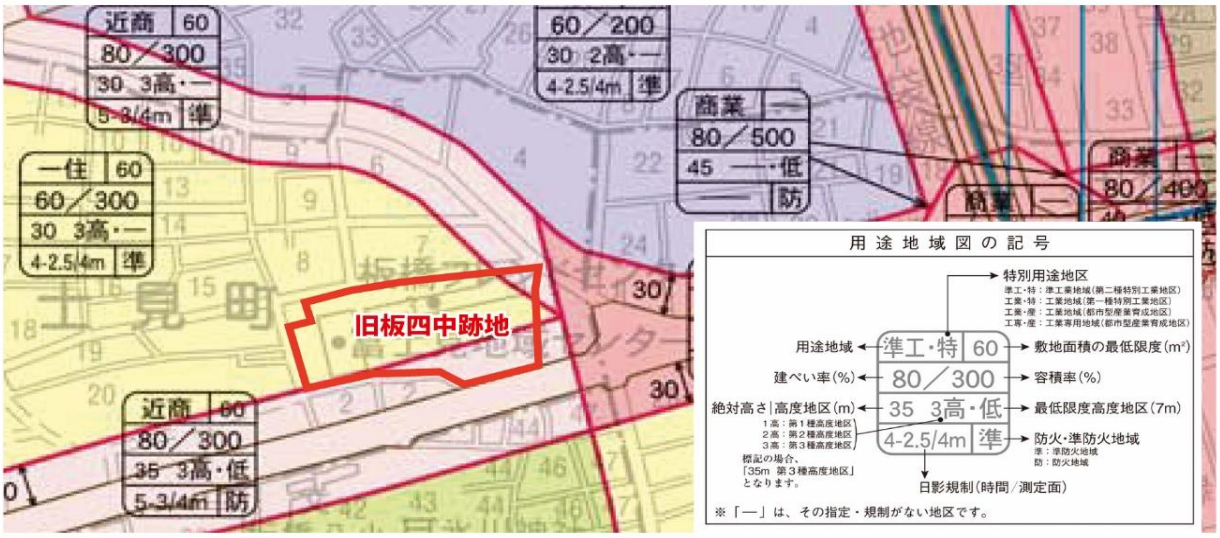
（1）各施設の法令・運用制度整理

各施設は、関連法令や運用制度等による様々な制約があります。複合・集約化するにあたり、効率的・効果的な施設・管理運営の実現に向けて、法令・運用制度を整理する必要があります。

現時点で想定される法令条件は下記のとおりです。

項目	内容
住所	東京都板橋区富士見町3-1
用途地域	近隣商業地域 ・ 第一種住居地域
建蔽率	80% ・ 60%
容積率	300% ・ 300%
防火地域の指定	防火地域 ・ 準防火地域
高度地区	第 3 種高度地域
日影規制	5-3/4m ・ 4-2.5/4m
その他	絶対高さ 30m

道路	幅員
都道第 318 号（南側） （環状七号線）	約 25.0m
板橋区道 225 号線（北側）	約 6.0m
板橋区道 221 号線（西側）	約 6.0m
私道（南側）	約 3.0m



板橋区都市計画図より

（２）既存機能の仮移転・本移転先の検討

既存施設の機能が切れ目なく運営を継続できるよう、適切な仮設計画や移転計画を推進していきます。

機能	仮移転の方向性
富士見地域センター	移転なし（新施設完成後新施設内へ移転）
フレンドセンター	富士見児童遊園内仮設建築物
南部土木サービスセンター	旧板橋第九小学校
旧板橋第四中学校記念品展示室	近隣学校で検討中 （新施設内展示スペース検討）

６　整備・配慮すべき事項

（１）ユニバーサルデザイン

○　整備計画

子どもから高齢者まで、多世代が利用する施設であるため、誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮した施設整備を推進します。

○　家具計画

「板橋区ユニバーサルデザインガイドライン」に基づき基本設計・実施設計時に決定します。

○　サイン計画

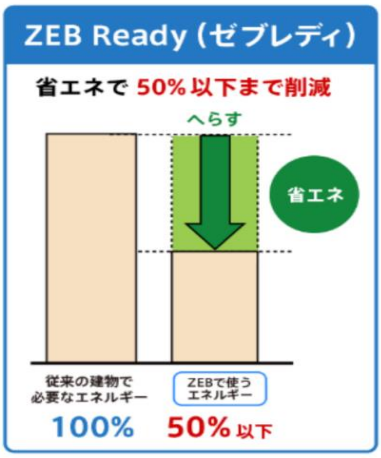
施設整備において設置する各サインは、「本庁舎サイン整備基本方針」及び多言語表記する際の区の統一的基準である「板橋区サイン多言語化基準書」に従って、だれもが見やすくわかりやすいサインを整備します。

（２）環境配慮・省エネルギー

「省エネルギー計画について、ZEB Ready 以上となるような計画とします。

「板橋区公共施設 省エネルギー・環境配慮設備等導入基準」に沿った整備項目の検討を行い、環境負荷低減に配慮した施設整備を検討します。

なお、具体的な設備等については基本設計・実施設計において検討を行います。



ZEB Ready　の定義

定性的な定義	定量的な定義(判断基準)
ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物	再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物

（環境省　ZEB の定義より）

（３）防災面の考え方

富士見地区の避難所機能の継続

現在、旧板四中の校舎・体育館は、避難所に指定されています。そのため、下記の事項に配慮しながら、体育館の活用手法を検討していきます。

① 体育館を改修する場合

空調設備改修・エレベーターの増設によるバリアフリー動線の確保等を検討していきます。

② 体育館を改築する場合

避難場所機能が継続できる建て替え工程を検討していきます。

③ 地域内輸送防災拠点の整備

旧板四中は、環状七号線に接する好立地です。この強みを生かし、地域の防災力はもとより、区全体の防災力強化を図る機能充実として、非常時には、地域内輸送拠点（※）として機能する施設を計画します。

※緊急支援物資等の受入、分配、区内避難所への輸送等を行う拠点

（４）設備計画

○ 電気設備

太陽光発電の設置検討や LED 照明の採用など、環境に配慮した技術及び省エネルギーを推進する技術を取り入れた計画を検討します。

○ 給排水衛生設備

効率的でメンテナンスのしやすい計画とし、節水型器具を採用するなど節水に配慮します。

○ 空調設備

用途毎に適切な空調方式を検討し、利用者にとって快適な空調計画とします。

○ 昇降機設備

屋上への動線確保及び施設利用に適したサイズを検討します。

ユニバーサルデザインに配慮した仕様・多言語に対応した仕様とします。

（５）長寿命化計画

○ 耐久性を有する材料・汎用性の高い材料の選定を基本とし、ランニングコストを意識した設計とし、メンテナンスしやすい動線の確保を検討します。

第５章　事業手法・今後のスケジュールなど

１　事業手法

建物構造・機能や施設配置案、管理運営計画を踏まえ、民間活力導入の可否を検討していきます。

２　想定事業費

建物構造・機能や施設配置案、既存機能に関する仮移転計画を踏まえ、設計・工費費用を算出していきます。

３　事業・工事スケジュール

施設整備計画においては、建物構造・機能や施設配置案、事業手法を踏まえ、最適な設計・工事スケジュールを設定していきます。

◆旧板橋第四中学校跡地施設整備

令和９年度 （2027 年度）	令和 10 年度 （2028 年度）	令和 11 年度 （2029 年度）
基本設計・実施設計	⟶	旧校舎解体工事

◆新施設管理運営

令和９年度 （2027 年度）	令和 10 年度 （2028 年度）	令和 11 年度 （2029 年度）
管理運営計画の検討	⟶	運営条件の精査

４　跡地活用計画

○　大原生涯学習センター及び富士見台児童館は、旧板四中跡地へ機能移転するため、施設整備完了後の跡地活用を検討する必要があります。

○　跡地活用にあたっては、地域課題・行政需要を的確に捉えた上で、活用方針を策定する必要があります。そのため、旧板四中整備完了スケジュールに連動する大原生涯学習センター及び富士見台児童館の移転時期を考慮し、跡地活用計画の検討を深度化していきます。

第６章　住民・施設利用者意見まとめ（旧板三小と同時説明）

１　住民説明会の概要

（１）令和７（2025）年５月実施

■説明会の概要

	5/23(金) 19:00～20:00 富士見地域センター	5/24(土) 10:00～11:00 富士見地域センター	計
参加者	55 名	25 名	80 名

■主な意見

若者・地域交流拠点
○　若者や高齢者も含めた多世代交流の場としての機能を整備してほしい ○　若者や利用者の声をよく聞いたうえで、施設機能などの検討を進めてほしい
多目的スポーツ広場
○　多目的広場は、多様な活用ができるよう人工芝で整備してほしい ○　サッカー公式大会の利用が可能となる広さの整備をしてほしい ○　土日にグラウンドを利用している少年野球チームの活動が継続できるよう配慮してほしい
多様な学びの場
○　フレンドセンター機能と他施設との共存が可能となる整備をしてほしい ○　グラウンド部分について、フレンドセンター利用者と地域利用との共存が可能な管理体制を検討してほしい
防災力の強化
○　避難所としての環境改善及び給水ステーション設置等を検討してほしい ○　体育館部分の避難所機能の継続や、多目的スポーツ広場と避難所機能の共存可能な整備をしてほしい
その他
○　さくらの小径の保存及び地域行事が継続できるよう整備してほしい ○　旧板三小跡地・大原生涯学習センター・富士見台児童館移転後の跡地活用方針を示してほしい

（２）令和７（2025）年 11 月実施

■説明会の概要

	11/28(金) 19:00～20:00 富士見地域センター	11/30(日) 14:00～15:30 大原生涯学習センター	計
参加者	28 名	45 名	73 名

■主な意見

若者・地域交流拠点
○　地域に住む外国人が、気軽にくらしの相談ができる機能を設けてほしい
多目的スポーツ広場
○　富士見地区には運動できる広場スペースが少ない、地域住民の運動量を補うことができる活用を望む ○　近隣の板八小の児童は、ボール遊びができるスペースを望んでいると聞いた ○　人工芝の管理や地域行事が継続できる配慮を求める
多様な学びの場
○　フレンドセンター機能と他施設との共存が可能か疑問である
その他
○　環七からの騒音や、日影の影響に配慮してほしい ○　解体工事中のグラウンド部分の機能継続を希望する ○　校舎を解体する際には、卒業生などを招いたイベントを開催してほしい ○　さくらの小径への影響を最小限にするよう配慮してほしい ○　旧板四中施設整備が完了するまでの間、可能な限り休館などが発生しないよう、切れ目のない移転を望む ○　スペース・機能の縮小などを起因として、団体利用が困難にならないよう配慮してほしい ○　大原生涯学習センターの跡地活用方針が決定する前に、近隣住民の意見をよく聞いてほしい ○　ボランティアセンター利用者の意見を聞く機会を設けてほしい

（３）令和８（2026）年５月実施

■説明会の概要

	5/22(金) 19:00～20:00 富士見地域センター	5/23（土） 10:00～11:00 本町集会所	計
参加者	42 名	13 名	55 名

■主な意見

若者・地域交流拠点
○　富士見まつりや盆踊り、防災訓練など地域行事を続けられるようにしてほしい ○　町会や老人クラブなど地域活動の場としても活用したい
多目的スポーツ広場
○　建物の上にスポーツ広場をつくるのではなく、今のグラウンドや広場を残してほしい ○　人工芝ではなく、土や緑のある広場の方が良いと思う ○　誰でも利用できる多目的広場にしてほしい ○　少年野球ができる場所をなくさないでほしい ○　子どもたちが自由にボール遊びできる場所が少ないので残してほしい ○　野球だけでなく、サッカーやラグビーなど様々な活動に使える広場がほしい
その他
○　地域住民の意見をもっと聞いて計画を進めてほしい ○　決まってからではなく、決まる前に意見交換したい ○　説明会を継続して開催してほしい ○　計画が分かりにくいので、完成イメージを見せてほしい





2　アンケート形式による意見

（1）アンケートの概要

施設利用者アンケートチラシ



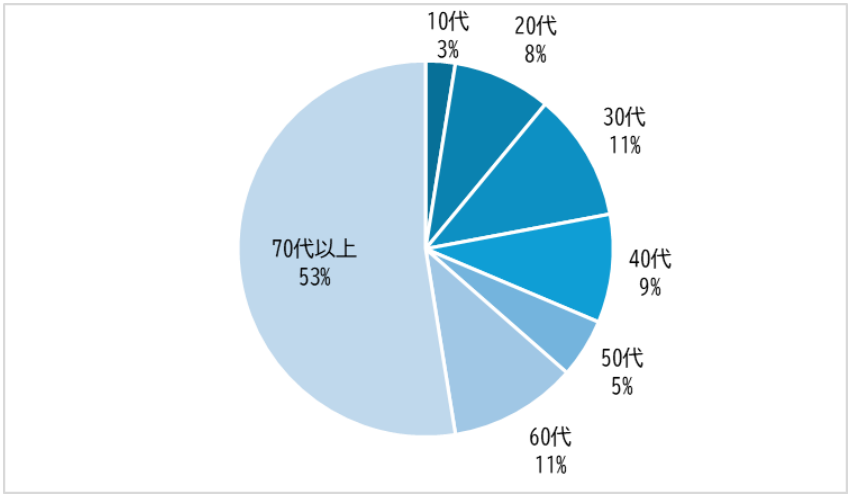
項目	内容
タイトル	旧板四中・旧板三小施設整備に関する施設利用者アンケート
対象	富士見地域センター、大原生涯学習センター、富士見台児童館、いたばし総合ボランティアセンター、本町集会所を利用している方
配付・回収方法	ポスター掲示・チラシ配付による WEB 回答及び書面回答
調査期間	令和 7 年 11 月 13 日（木）～12 月 12 日（金）
回答数	118 件
調査票構成	**1　利用について** ○　よく利用する施設を下記より選択してください。 ○　この施設をどのくらい利用しますか？ ○　主な利用目的は何ですか？

項目	内容
	２　施設への評価 ○　この施設の良いところを教えてください。（自由記述） ○　改善してほしい点はありますか？（自由記述） **３　今後に向けて** ○　旧板四中跡地の施設に整備してほしい施設や機能はありますか？（自由記述） ○　旧板三小跡地の施設に整備してほしい施設や機能はありますか？（自由記述） ○　上記学校跡地周辺の地域で課題だと思うこと、または良いところを教えてください。（自由記述） **４　回答者について** ○　年代・属性

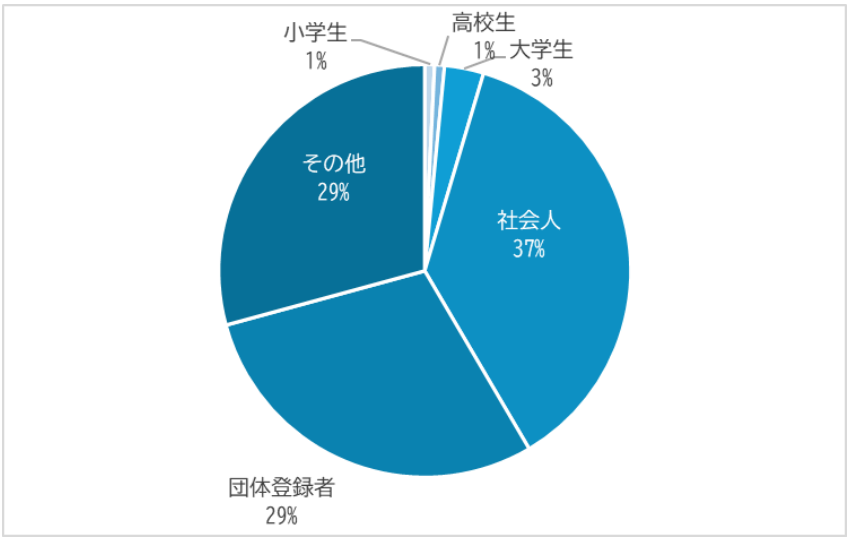
（２）アンケート結果分析

■回答者の属性

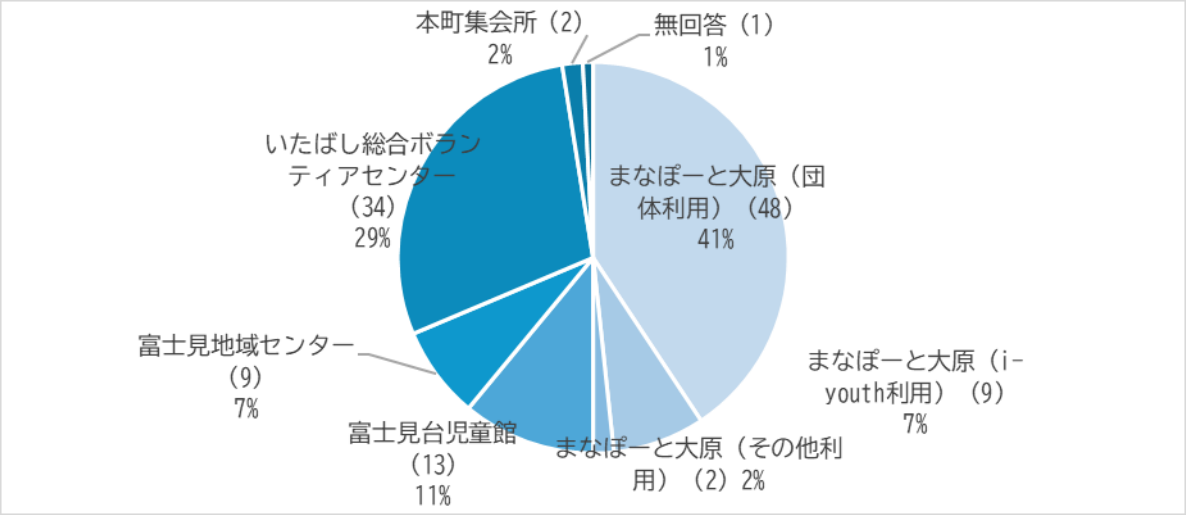
①年代



②職業など



■利用目的整理



（３）自由記述欄意見整理（旧板四中関連の回答のみ抜粋）

○　この施設の良いところを教えてください。（自由記述）

利用施設属性	意見の概要
富士見台児童館	○　先生・職員が親身で優しく、子どもたちが懐きやすい ○　幅広い年齢層に対応し、交流の場を提供してくれる ○　毎日・季節ごとのイベントが充実し、子育て世代が助かっている ○　室内遊具が多く、雨天や暑寒の日でも安全に広く遊ばせられる ○　乳幼児専用スペースがあり、安心して遊ばせられる
大原生涯学習センター（i-youth利用）	○　スタッフが親しみやすく、フレンドリーで利用しやすい ○　音楽活動や卓球、ピアノなど多様な趣味・文化活動が可能 ○　大きな鏡と広い練習場所がありダンス向き ○　静かな環境で落ち着く ○　駅近でアクセス良好
大原生涯学習センター大原（団体利用）	○　利用料金が手頃 ○　施設利用者本位の運営がされている ○　お掃除が行き届いており清潔 ○　駅やバス停が近く利便性が高い ○　スタッフが礼儀正しく親切 ○　趣味や文化活動の拠点として充実している ○　部屋が確保されていて、使いやすく、ロッカーや荷物置き場も充実している ○　古い建物の趣があり、歴史的価値が感じられる

利用施設属性	意見の概要
いたばし総合ボランティアセンター	○ 利用料金がかからず、複数の部屋・備品が利用できる点が大きな魅力 ○ 駐輪場やコピー機など、設備が整っている ○ 学習支援や多文化交流の拠点としても機能している ○ 無料の学習塾など、多様な支援活動が行われている ○ 受付の方が親切で相談しやすい ○ 会場や施設の利便性が高く、静かで落ち着いた環境
富士見地域センター	○ 広い洋室やレクリエーションホールがあり、会合や地域活動に適している ○ 掃除が行き届いていて清潔 ○ 職員の対応が親切 ○ 気軽に使える雰囲気

○ 改善してほしい点はありますか？（自由記述）

利用施設属性	意見の概要
富士見台児童館	○ 利用者層の違いによる治安・マナーが悪化している（特に休日や土日）ルール違反や、騒音の改善を希望する ○ 児童館が一階だと、利用しやすい ○ 乳幼児専用スペースの確保、小学生以上も遊べる場所の設置など、施設の拡充を希望する ○ 芝生広場の整備、授乳室、乳幼児グッズの販売コーナーなど、設備面の充実を求める
まなぽーと大原（i-youth 利用）	○ 卓球利用者に対する利用者マナーの改善をお願いしたい ○ 建物の天井が低いことにより、圧迫感がある ○ 物販の再開や、バレーボールなど体育館利用の自由化を希望する ○ 音響機器や電子機器を更新してほしい ○ Wi-Fi 環境の向上や、空調の音を改善してほしい ○ 睡眠スペースや個別学習スペースを設置してほしい
まなぽーと大原（団体利用）	○ 建物改築・改装に関する懸念（移転希望を望む声や、現状維持を望む意見あり） ○ 施設全般が老朽化している。特に水回り（トイレ・照明の暗さ）や壁の状態が悪い ○ 空調や換気設備の個別調整ができるようにしてほしい ○ トイレの洋式化や音響機器の更新を望む ○ 利用料金の値上げに対する意見

利用施設属性	意見の概要
いたばし総合ボランティアセンター	○ 防災機能の充実や、わかりやすい表示を希望する ○ 飲食可能スペースの設置やカフェなど軽食施設があるとよい ○ 展示室の利用効率化や移設を希望する ○ 建物・設備の老朽化対策が必要 ○ 洋式トイレの増設や温水洗浄便座機能の設置を希望する ○ Wi-Fi の全館常設・強化を求める ○ 設備備品の充実、電子機器を更新してほしい ○ 教室数やキャパシティ増加、予約システムの利便性向上を望む ○ 駐輪場へ屋根を設置し、駐輪の列を整理してほしい
富士見地域センター	○ トイレの温水洗浄便座機能の設置を希望する ○ レクホールの広さや使いやすさを改善してほしい。特に、時間帯によってホールを自由に使える仕組みがあるとよい

■今後に向けて回答

○ 旧板四中跡地の施設に整備してほしい施設や機能はありますか？（自由記述）

分類	主な要望・意見の概要
若者･地域交流拠点	○ 無料で使える会議室や学習スペース、勉強ができる個別・グループルームの設置や、若者が集えるフレンドリーな交流スペースの設置を希望する ○ 図書館機能の拡充や多読スペース、勉強ができる静かな環境を整備してほしい ○ ICT 設備（Wi-Fi、プロジェクター等）の完備を希望する。 ○ 芸術・文化活動向けの専用教室や、ホール機能、工芸・調理室・楽器演奏などの拠点整備を求める ○ 多文化共生の観点から、子どもへの日本語･学習支援など学習支援機能の充実を期待する ○ 若者が企業活動等を行える制作･起業支援スペース設置を期待する ○ 子どもに配慮した遊び・憩いの場を確保して欲しい ○ 子育て支援や乳幼児ケア機能も含む交流･学習の複合施設になるとよい
多目的ｽﾎﾟｰﾂ広場	○ サッカー、野球、フットサル等ができるスペースや、子どもたちがボール遊びなどを自由にできる広い屋外スペースを望む。 ○ 小さな子どもと小学生以上で遊ぶスペースが分かれているとよい ○ 乳幼児がハイハイなどできる遊び場や授乳室、ちょっとした食品・グッズ販売があるとよい ○ バーベキュー場など、広場周辺に憩いのスペースや遊具が充実しているとよい ○ バレーボール、卓球などができる体育館の設置や、利用開

分類	主な要望・意見の概要
	放ができるとよい ○ 防犯・マナー等配慮の上で、自由に運動ができる場所があるとよい ○ 人工芝の素材選定や維持管理によるマイクロプラスチックの発生抑制にかかる代替素材の検討など、環境負荷軽減に対する配慮を求める
多様な学びの場	○ 日本語や文化講座などができる教室設備の充実を求める ○ 誰もが無料で利用できる教室や、学習支援ルームを充実してほしい
防災力の強化	○ 防災広場を整備し、防災機能を向上してほしい ○ 備蓄物資が豊富で、炊き出しなどができる避難所運営が可能な施設整備を希望する ○ 広い敷地を活かした火災延焼防止の確保を求める ○ 防災学習センターや情報発信機能があるとよい ○ AED 設置やスロープの設置等バリアフリーの強化が必要 ○ 地域住民が気軽に集まれる防災拠点づくりを求める
その他	○ カフェスペースや休憩場所などがあるとよい ○ 日影スペースの設置を希望する

○ 上記学校跡地周辺の地域で課題だと思うこと、または良いところを教えてください。（自由記述）

良いところ	○ 静かな地域/落ち着いた環境 ○ 治安が良い ○ 公園が隣接している ○ 「板橋」が近い ○ 場所が知られてなじみがある ○ 地域のお祭り、町会の催し、地域の少年野球チーム、消防団の練習・大会実施等に利用されており、地域の場として利用されている
課題	○ マンションが多くなって地域の繋がりが希薄になってきた/町会に入っていない ○ 食事をするところが少ない ○ 少子化問題、出生率向上が必要 ○ 高齢化が進んでいる。 ○ 外国人が増えている ○ 騒音対策、枯れ葉対策が必要 ○ 小さい子どもが遊べる公園が少ない ○ 旧板四中跡地は場所が分かりづらく、少し暗い ○ 新しいマンションが増えて、学校が足りなくなるのではないかと心配 ○ 交通機関から少し遠い ○ 旧板四中の活用活性化とフレンドセンターの特性が相反すること ○ 自転車で利用の場合、自転車の置き場がない ○ 旧板四中、旧板三小どちらにしても大原を利用しているも

	のにしては遠くなるので巡回バスを出してほしい ○ 施設の周知が不足している
その他	○ もともと学校ができるくらいであるから、本質的には人が集まるところ。安易に宅地などに転用せず、公共の場として維持しようとしているのは良い ○ 「縁切榎」に来る人がとても増えているので、その方たちに板橋をアピールできるようにしたら良い ○ 会員が高齢なので駅近の場所が良い ○ 大原生涯学習センターは移設ではなくて改装して元の場所に建ててほしい ○ ダンスをするので鏡があると嬉しい ○ 騒音問題を解決できれば、なんとかなりそう

３　ワークショップ形式による意見

（１）ワークショップの概要

項目	内容
テーマ	旧板四中の跡地でやってみたい活動について考えよう
対象	板橋区立板橋第八小学校　５年生 52 人（参加者 50 人） 全８班でのワーク
実施日時	令和８年２月９日（月）　13:25~15:00
会場	板橋区立板橋第八小学校　体育館
目的	旧板四中・旧板三小跡地の施設整備に向けて、子どもたちの意見を取り入れるとともに、ワークショップを通じて施設整備のプロセスを学び、関心を醸成します。
進め方	旧板四中の跡地で子どもたち自身がどのような活動をしたいかを考え、意見交換を行いました。班ごとにアイデアを出し合い、その後、各自が 1 人につき 1 つの意見をまとめました。まとめた意見は AI に入力し、生成されたイラストを用いて、各班で発表を行いました。

【当日の様子】





（2）ワークショップの成果物

【各グループ成果物】

















（2）まなぽーと大原フェスティバルでのワークショップの概要と成果

項目	内容
テーマ	旧板四中にできる新しい建物でどんなことがしたいですか。
対象	まなぽーと大原フェスティバルの参加者のうち 15 名 展示とアンケート（66 件）・電子回答（8 件）
実施日時	令和８年６月６日（土）　14:35~16:30
会場	大原生涯学習センター　２階ロビー
目的	旧板四中・旧板三小跡地の施設整備に向けて、若者を中心に区民の意見を取り入れるとともに、ワークショップを通じて施設整備のプロセスを学び、関心を醸成します。
進め方	６月６日（土）は、旧板四中の跡地にできる新しい建物でどんなことがしたいか、意見を書いていただきました。６月７日（日）は、同テーマで、パネル展示とアンケートによりご意見をいただきました。また、開催前後には、（5/18～6/14）案内チラシに添付した二次元コードより、同テーマの電子アンケートによる意見も聞きました。

分類	主な要望・意見の概要
スポーツ･運動施設	○　体育館･多目的ホール（バドミントン、卓球、ダンスなど） ○　屋内プール・水泳施設 ○　マット運動・体操・武道ができる施設 ○　ボルダリング・トランポリン・アスレチック

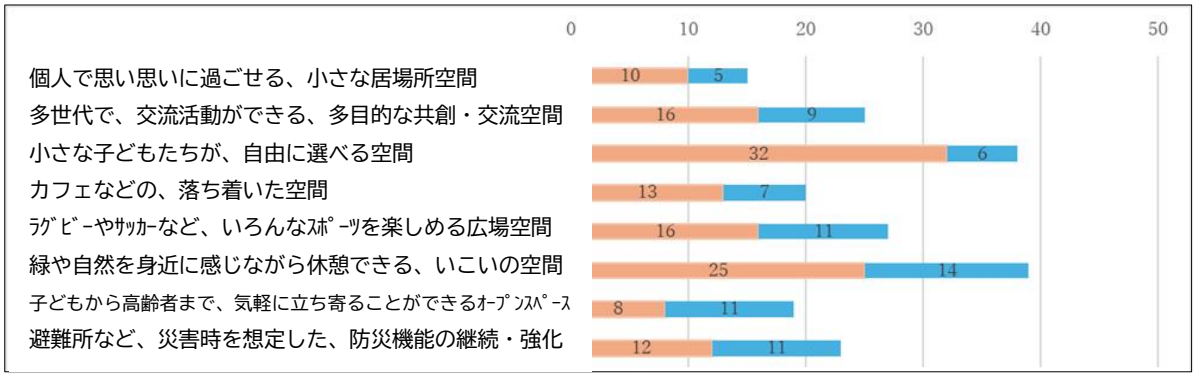
分類	主な要望・意見の概要
	○　テニスコート・ピックルボールコート ○　広い運動場・グラウンド、サッカーコート ○　天候に左右されない屋内スポーツ施設 ○　自主練習できる部屋やダンススタジオ
学習・文化・交流	○　図書館・自習室・学習スペース ○　室内の多目的広場・交流スペース ○　文化施設（展示・コンサート・ギャラリー） ○　音楽室・楽器練習室・ピアノ室 ○　工作室・ものづくり・プログラミング体験 ○　料理室・調理実習ができるスペース
居場所・くつろぎ	○　自由に過ごせる居場所・フリースペース ○　小さなカフェ・おしゃれなカフェ ○　屋上・テラス・夏に花火が見える場所 ○　自然を感じられる空間・緑のある広場 ○　キッズスペース・子どもが遊べる場所 ○　安心して過ごせる、落ち着ける空間
防災・安全・設備	○　災害時に使える場所・避難場所 ○　非常用電源・防災設備の設置 ○　調理室・備蓄スペースの整備 ○　Wi-Fi・通信設備の充実 ○　清潔なトイレ・更衣室・シャワー室 ○　エレベーター・バリアフリー対応 ○　駐輪場・駐車場の整備
サービス･便利な機能	○　カフェ・売店・自動販売機 ○　コンセント・Wi-Fi の完備 ○　コインロッカー・更衣室 ○　ミシン・工作機材などの貸出 ○　AI や最新技術を活用した学習・体験 ○　手軽に使える貸室・会議室 ○　スポーツや文化のイベント開催
その他	○　畑・花づくり・コンポスト ○　地域の方と交流できるイベント ○　季節のイベント（夏祭り・花火など） ○　広い芝生広場・ピクニックができる場所 ○　野外活動・キャンプ体験 ○　地域の歴史や文化を学べる展示 ○　みんなで楽しめるグルメフェスなど

4　オープンハウス形式による意見

（1）実施概要

場所	さくらの小径（旧板四中敷地内）
開催日時	令和８年３月 15 日（日）10:00～14:00
内容	○　旧板四中跡地の施設整備計画概要を説明したパネルを展示 ○　小学生向けワークショップで作成した成果物を展示 ○　「旧板橋第四中学校跡地の施設整備に期待すること」というテーマで、８つの意見をイメージイラストとともに掲示し、シールアンケート形式で実施 ○　「旧板橋第四中学校跡地の施設整備予定の新たな空間でどう過ごしたいですか」をテーマに自由意見を募集
参加人数	103 人（206 票）　※１人２票

（2）旧板橋第四中学校跡地の施設整備に期待すること



※オレンジ色は子どもと子育て世代パパママ意見、青色は大人の意見

○　全体の傾向をみると、「小さな子どもたちが、自由に遊べる空間」「緑や自然を身近に感じながら休憩できる、いこいの空間」の２項目が多く、主に子どもや子育て世代が期待している傾向にあることがわかりました。
○　大人からは「緑や自然を身近に感じながら休憩できる、いこいの空間」が最も期待されており、それに次いで「ラグビーやサッカーなど、いろんなスポーツを楽しめる広場空間」「子どもから高齢者まで、気軽に立ち寄ることができるオープンスペース」「避難所など、災害時を想定した、防災機能の継続・強化」が挙げられました。

（3）旧板橋第四中学校跡地の施設整備予定の新たな空間でどう過ごしたいか

○　盆おどりに参加しているので引き続き行えると良い。
○　カフェがあると良い。高齢者の出かけるきっかけにも繋がる。
○　環境面に配慮したスポーツ広場の整備を望む。

（4）当日の様子

施設整備計画の概要及び小学生ワークショップ成果物を展示



